



地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和3年度執行）

秦野地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額（千円）		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課 科目（目）
	交付金	補助金									
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	100	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								コミュニティ推進課 自治振興費
地域防災体制強化等事業	404	274 130	南畑公園及び渋谷公園に設置した防災備蓄倉庫を活用するため、収納用品を整備し、自主防災機能の強化を図る。	防災備品倉庫を活用するため、収納用品を整備し防災機能の強化を図る	防災備品が充実してきている	秦野地域の防災拠点とし、自主防災組織が立ち上がり、防災に取り組む住民が増えている	防災倉庫を中心としてさらに活動を支援するとともに地域住民の自主防災意識の向上をめざす	各部会からの報告を受け、役員会でまとめたものを総会で決定する。	コロナ禍でイベント等の開催が難しい中、備品等の充実がより一層図られたものと評価。適切な管理運用のもと、地域内の各種組織間の連携を強化し、当該備品が有効に活用されることを期待するもの。	災害時に備えた備品整備を評価するとともに、地域住民の自主防災意識の向上に期待	危機管理課 災害対策費
地域掲示板設置事業	48	48	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民に知らせるための掲示板を、地域団体と共に使用するとともに維持・管理・運営を行う。	ガラス張りにした掲示板の清掃が行き届いていない	シルバー人材センターに年2回清掃を委託した	清掃することによって見やすくなった	掲示板の管理について地域住民と考えていきたい			掲示板の清掃を行い適切に管理いただいており、広報に有効な手段となっているものと評価。	コミュニティ推進課 自治振興費
AED管理事業	43	43	地域内の各会館に設置したAEDについて、定められた消耗品の交換をし、正常に使用できるよう維持管理を行う。	地域内会館に設置したAEDの消耗品交換の必要性がある	AEDバッテリーとパッドの交換	AEDバッテリー・パッド交換した	地域住民へAED講習会などへの参加の呼びかけ			共同利用施設にAEDを配置することで、多くの住民の安心感を得ることが出来る。今後も引き続きAED設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていきたい。	健康増進課 保健衛生総務費
市民レクリエーション大会事業	280	280	地域のスポーツ振興会と子供会等の地域団体が開催する事業を支援する。	毎年度地域の協力も受け、レクリエーション大会の準備・補助を行っている。	開催なし	開催なし	自治会、子ども会入会者の減少は止まらない。今後とも地域住民の参加率向上を図り、自治会、子ども会等の発展につなげていきたい。			新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	生涯学習推進課 社会体育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	400	400	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	年3回の「秦野まちづくりだより」の発行	今年度もコロナの為、広報する内容が少なく2回の発行となった。	「お聞かせください！みなさまのこえ」では、地域内での要望を聞くことができ、「お伝えします！みなさまの活動」では、地域内で活動されている団体さんが協議会の事業に参加協力いただけることとなった	今後も活動のPRを進めて地域住民とのコミュニケーションを向上させていきたい。協議会の会員の募集も含め、啓もう活動及び行事参加者増加に努めたい。			誌面全体が優しい色使いで統一されており見やすい。今後も地域に密着した誌面作成に期待。	広報シティプロモーション課 自治振興費
合同防災訓練事業	100	100	小学校児童と地域住民が合同で防災訓練を行い、防災意識を高めるとともに地域住民と交流を図る。	秦野小学校3年生、4年生児童、保護者、南畑公園自主防災会合同防災訓練を支援する	合同防災訓練は実施なし、ブランケット、簡易エアーマット、アルミベッド、ブランケットを購入	防災訓練を実施の際に使用する	色々な体験ができるよう、防災訓練の内容を検討する			合同防災訓練は、コロナ禍で実施できなかったが、今後の災害時に備えた備品整備を評価するとともに、コロナ禍においても工夫された防災訓練の実施に期待	危機管理課 自治振興費
はたのひろば兼事務所管理運営事業	1,060	1,060	地域内のコミュニケーションを密にすると共にコミュニティ会員相互の事務の効率化を図るため開設したはたのひろば兼事務所について、管理運営を行う。	はたのひろば兼事務所の平日開所の継続	緊急事態宣言のため5月8日から6月20日は休館。以降10月末までは週に3日の開館。11月からは平日5日の開館となった。	会員の会議・打ち合わせ以外に立ち寄り方も増えた。はたのひろばを利用したミニイベントの開催も盛況である	コミュニティ活動の拠点施設として事務所機能を充実させるとともに地域住民・地域団体の利用も促進。			社会情勢を鑑みながら開所され、コミュニティ機能の維持に寄与しているものと認識。	コミュニティ推進課 自治振興費
地域ギャラリー維持管理事業	50	50	コミュニティ事業の情報発信、地域住民の作品を掲載、地域行事等の広報を行うためギャラリー掲示板の維持管理を行う。	1か月ごとに作品を入れ替えている。	1か月ごとに作品の入れ替えを継続	季節感のある作品もあり、足を留めて見ているかたもいる	作品集めはまだまだ必要を感じている。いろいろな作品を掲示・展示していきたい。			作品の展示を通じて、地域のつながりが生まれているものと評価。	コミュニティ推進課 自治振興費
校区盆踊り大会事業	200	200	スポーツ振興会と子供会等の共同開催である盆踊りを支援する。コミュニティ意識の高揚を図る。	スポーツ振興会・子ども会等で開催している。コミュニティ意識の高揚をはかる為に積極的に支援をする。	コロナのため実施なし	コロナのため実施なし	踊りや太鼓の継承、参加する側から開催する側への転換期の支援など			新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	空港・観光課 自治振興費
地域イベント備品整備事業	461	461	地域の交流と地域活性化を図るため、地域活動を推進・支援していくための備品等を整備する。	イベント必要物品の不足	扱いやすい備品の整備、発電機を購入。	イベント備品は軽量のものが増え、必要なものそろってきている。	備品の維持管理、使用頻度が高く傷んでいる備品の買い替え時期の検討。貸し出し備品の充実。感染症対策用品で地域活動に必要な物品の検討			高額な備品については特に管理等に注意し、長期間使用できるように心掛けてもらいたい。	空港・観光課 自治振興費
地域イベント活性推進事業	850	850	地域の交流と地域活性化を図るため、地域活動を推進・支援していく。	あおぞらdeはたのフェスタ、雪あそび	コロナの為、実施せず。	コロナの為、実施せず	コロナ禍において感染対策を考えながら、地域住民が参加できる方法の検討が必要			新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	空港・観光課 自治振興費
健康啓発講座開催事業	50	50	運動による認知予防講座及び正しい知識と対処法、予防法等を啓発するための講座を開催する。	健康講座・イベントがなかった	コロナのため実施なし	コロナのため実施なし	定期開催や参加しやすい環境づくりなど幅広い年齢層に参加いただけるよう企画していきたい			新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	地域支援課 自治振興費
秦野地域花いっぱい運動支援事業	80	80	地域と学校と一緒に花を育て緑化を進め笑顔のあふれる地域にしていく。	毎年渋谷中学校・地域団体と連携して行っている。	コロナのため地域住民との活動は出来なかったが、渋谷中学校の生徒が花を育てるための、花苗・土などを支援した。	校内が花いっぱいになった	今後も継続的に支援し、地域に還元して花があふれる街を目指していきたい。			コロナ禍が続く中でも、緑化事業の継続と地域のふれあいの場を広げることが出来た。	公園みどり課 自治振興費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和3年度執行）

自然学習講習会・昆虫育成事業	70	補助金	70	地域特有の自然と触れあい、自然を学び、幼虫育成により親子のふれあいの場を提供する。	平成22年度から継続事業。カブト虫養育場での幼虫飼育、腐葉土の入替用意。	養育場の腐葉土の入替を行った。コロナの為、講習会は実施せず	養育場の土の入替をすることにより、自然のかぶと虫の産卵場所に最適となる	かぶと虫の養育を通じて今後も子供達に自然の大切さを訴えていきたい。			飼育体験や昆虫との触れ合いを通じて、貴重な自然学習の場を提供出来た。	公園みどり課 自治振興費
秦野小学校体育館整備事業	77	補助金	77	秦野小学校体育館入り口にスロープを設置し、車椅子が入れるよう環境整備を行う。	秦野小学校の体育館入り口にスロープがない	体育館入り口用に可動式の簡易スロープを作った	可動式の為、必要時に設置することができる	体育館の備品、環境整備について学校、教育委員会と連携して更新していく必要があると考える。			快適に利用してもらったための環境整備を実施することにより、安全に活動を行うことが可能となった。	教育総務課 自治振興費
キッズランド支援事業	50	補助金	50	秦野小学校で開設された「秦っ子キッズランド」で使用する用品及び教材を購入し、充実したキッズランド活動を支援する。	キッズランドでの文具、消耗品の不足。	文具や教材、消耗品、遊具等の購入、買換え。	遊びの幅が広がり、楽しんで過ごしている。	参加人数が多く、教材、消耗品が不足気味。継続的に支援する必要がある。			今後も支援は必要と考える	教育センター 自治振興費
計	4,323			事業提案限度額 5,093千円	次年度繰越金額 770千円							

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和3年度執行）

北豊島地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。							コミュニティ推進課 自治振興費
防犯カメラ新規設置事業	81	電気使用料 3 機器借上料 78	安全で安心な暮らしの実現に向け、街頭犯罪件数のさらなる減少を図るため、防犯カメラを設置する。	北豊島地域において、細街路でのひたつき等路上防犯の被害を未然防止を図る。	防犯カメラ新規設置(1基…荘園地区)	防犯カメラを設置した事により、未然に犯罪の防止に寄与する。	各部会でまとめられていたものを役員会で決定する。	前年度と同様にコロナ禍によりイベント等が実施できなかったが、きたてしまプラザを中心とした活動を継続することにより、コミュニティのつながりの強化に努めていただいたものと評価。	必要箇所に適切に設置していることで、市域の治安維持に貢献したことを評価	危機管理課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	161	電気使用料 5 機器借上料 156	安全で安心な暮らしの実現に向け設置した防犯カメラの維持管理を行う。	以前から人通りも少なく、防犯上で不安な箇所であったが安全安心なまちづくりの一環として防犯上強力な機器防犯カメラの設置要望があった。	令和2年度豊島北国道アンダーパスに一基設置 地域住民にとって防犯上安心安全効果を期待している。	地域の安全 安心に大いに役立っている。	設置維持管理費用が大変だが出来ればもう少し地域の安心安全の為、増設したい。		継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む	危機管理課 自治振興費
地域掲示板設置事業	262	修繕料 262	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民に知らせるため、掲示板を設置する。また、地域団体と共に使用出来るようにする。	掲示板設置(豊島南) 予定	豊島南2-10(畑地横)に設置	この地域の方への情報発信			自治会の不在地域にも設置され、広報範囲が広がったものと評価。適切な維持管理をお願いするところ。	コミュニティ推進課 自治振興費
地域行事活動促進事業	75	行事報償金 75	地域行事(校区盆踊り大会・校区秋祭り等)に必要な備品等の支援を行い、地域内行事の活性化を促す。	校区イベント行事備品購入費用補助	コロナ感染予防のため行事中止				新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	空港・観光課 自治振興費
AED管理事業	43	消耗品費 43	地域内の各会館に設置したAEDについて、定められた消耗品の交換をし、正常に使用できるよう維持管理を行う。	住吉会館、豊島北会館のパッド交換 使用期限切れになるため	上記2館のパッド交換		定期的に交換が必要		共同利用施設にAEDを配置することで、多くの住民の安心感を得ることが出来る。今後も引き続きAED設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていただきたい。	健康増進課 保健衛生総務費
街路灯強化事業	57	電気使用料 12 修繕料 45	安全・安心なまちづくりの一環として防犯対策強化を目的に街路灯を整備する。	道路照明が不十分なところがあり、また道路狭小、道路交通、防犯上問題があった。	通学路や交通量の多い狭い道路の照明が不十分であると思われるところの交通安全を図る。	道路照明を設置ならびに灯器のリニューアルにより、夜間でも明るく安心して通行でき交通安全が図れた。	狭い道路で道路照明の設置が必要であるため、年次ごとに設置を進めていく。		街路灯の設置により、地域内の夜間交通の安全確保が図られた。	土木管理課 交通対策費
市民レクリエーション大会事業	150	行事報償金 150	住民間のコミュニケーションを図る、校区レクリエーション大会に必要な備品の購入を行う。	新型コロナ禍の為中止。	新型コロナ禍の為中止。				新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	生涯学習推進課 社会体育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	348	補助金 348	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	北豊島地域にお住いのすべての方々に親しんでお読みいただく広報紙として地域の活動情報、地域の生活情報を掲載してきましたが、目的を十分に達成していませんでした。	北豊島地域もすでに高齢化社会。また長期間続くコロナ禍などから地域住民の閉塞化が加速し、地域の活動が消極的になっています。コミュニティ紙を通して地域活動への参加を呼びかけていますが、反応は弱い状態です。	コミュニティ紙発行の効果は弱い状態です。しかし発行を継続していく意味は大いにあります。即効性は少なくても、地域の活動を少しずつでも認識してもらうことにより、何かのきっかけで参加してもらえることでしょうか。	広報紙の内容は活動の報告とこれから行われる活動の案内が中心。しかし現状では印刷所に回す原稿の締切日が発行日の25日前。これでは掲載内容の豊富さ・多様性・新鮮さを地域住民から求められても対応できない。	限られた誌面の中で、写真を用いながら上手くまとめられており、子どもや地域の方のイラストなども温かみがある。今後編集スケジュールの短縮化による、より新鮮味のある発行内容に期待。(広報誌は、原稿〆切から発行日まで約12・3日なので、改善出来る可能性があるかも)	広報シティプロモーション課 自治振興費	
防災訓練開催事業	20	補助金 20	協議会拠点でもあり、各種教室等で多くの人たちが集まるきたてしまプラザでの非常時に対する防災訓練を行う。	北豊島地域において、将来予想される「東南海地震、地球温暖化に伴う異常気象による、局地的豪雨等の災害に備える必要がある。	コロナ禍により実施できていない。	同上により効果判定なし	防災は、地震・大雨・火災等と様々なものがあり、それぞれに沿った防災講習を行っていきたい。		新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	危機管理課 自治振興費
きたてしまプラザ活用事業	2,628	補助金 2,628	地域住民相互の交流の拠点として住民対象の文化教養教室、子育て支援活動、中学生学力向上のために「池田ふくまるはばたき塾」開講支援等を行うとともに高齢者等憩いの場としての談話室の使用活動を行う。	きたてしまプラザを地域住民相互の交流拠点として、住民対象の文化教養教室 子供支援活動が出来た。池田ふくまるはばたき塾の開講支援 又談話室も完成し、本格的に高齢者等憩いの場として有効活用していきたい。	今年度はコロナ感染防止の為 休館もあり、大幅に利用者減となりました。協議会の拠点 各種文化教室開催場所 地域の中学生学力向上の為 夜間教室(はばたき塾11回 271人)の提供 子育て支援 地域住民相互交流 親睦の場として開放運営する目的で十分に活用されています。(利用回数及び参加者677回 5,586人 教室166回 1,606人)	今年度はコロナ感染防止の為 利用者が減少したが 本年度は従来利用者数に戻ると見られます。当協議会の拠点として、地域住民にも認知され、利用者も多くなってきております。	今後も多くの地域住民に利用される協議会拠点として運営していきたい。高齢者、地域の方々などでも気軽に利用できるプラザにしたいと考えております。	様々な年代の方を対象とした教室等の開講や談話室の活用を通し、住民同士の交流の機会を創出しているものと認識。	総務課 自治振興費	
きたてしまプラザまつり事業	50	補助金 50	協議会の活動状況や年1回、地域住民に広くPRすることを目的として祭典を開催する。	協議会の活動拠点としての活用状況 又は協議会主催の各教室の発表の場や、利用いただく地域の住民にPRをすべく9月に開催予定でしたがコロナ感染が拡大傾向になり、令和4年1月23日に延期実施を再考し、開催日近々の為一部食料品等購入した。	結果 コロナ禍で中止に追い込まれた。提案額 50,000円 執行額 26,106円 返還額 23,894円	実施することで協議会の存在価値がPRが出来たと思うが中止に追い込まれ、残念な事となりました。	マンネリ化しない様に新しい企画段階で多くの地域住民に参加してもらう内容の検討をする。	コロナ禍でのイベントの中止についてはやむを得ない。	空港・観光課 自治振興費	

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和3年度執行）

環境美化ウォーキング事業	16	補助金	16	継続的に地域の清掃活動を行うために必要な用具を購入し、子どもたちを含む地域住民が地域美化運動を展開する。	北豊島地域内の環境改善の為、地域を分割しゴミ等を拾いながら、ウォーキングを通じて、「ゴミの発生場所と分析」を実施！ゴミ撲滅美化活動と健康・地域交流を行う。地域住民と協力、ゴミを出さない為の啓蒙活動を強化する。＜コロナの猛威収まらず、状況確認対策次第＞ ＜計画＞本年度の「環境美化ウォーキング事業は2回」を予定。 予定・第1回9月「荘園地区」、第2回R3/3月「豊島北地区」2回/年	本年度の「環境美化ウォーキング事業は2回→1回」にて実施。 実施日・11/27「住吉地区」、第2回目は中止 ＜実施要領＞ ＜コロナウィルス対策＜消毒・検温・手袋（ビニール・軍手）、不織布マスク、ソーシャルディスタンス＞をした上で、住吉地区にて実施。20人の参加（コロナ対応の人数限定）。ウォーキングしながらゴミを拾い、ゴミ捨て抑止の掲示板を付けゴミを減らす活動に取り組みました。 ＜実施時の目標＞「ゴミ分析データ表作成と啓蒙（市発行）看板の設置」を重点的に、環境にやさしい街づくりを目指す。活動浸透活動の効果確認。	ウォーキングにより、・気持ち（爽快感）・見る目の変化・四季の変化を肌で感じ、地域の変化を感じる。 コロナ対策はそれなりに実行し効果は得た。 ・小学生の参加により継続性を期待したが、次回へ持ち越します。	・コロナ対応に心掛けた事業活動を計画。 ・子供～高齢者まで、安全で安心な活動を立案し継続を心がける。	美化活動と健康を融合させた効果的な活動として評価。 感染症対策も徹底した上で実施されたものと認識。	環境政策課 自治振興費
環境にやさしいエコクッキング講習会開催事業	40	補助金	40	ウイルスの影響時にも対応し、楽しい食事ができ、環境に配慮した家計に優しいクッキングスタイルの講習会を開催する。	「第八回目エコクッキング」1回/年間 計画野菜ソムリエによる＜キッチンからできる地球への思いやり＞をテーマに、毎日の食材調達から料理、そして楽しい食事、後片付けまで環境に配慮する（エコロジー）だけでなく、家計にも優しい（エコノミー）これらのクッキング・スタイルを先取りする。イベントよりエコを吸収し、各家庭・地域への拡散期待。	本年度（中止）8 or12月 実施予定（1回/年）→R4.2/20実施計画も年末年始後のコロナウィルス拡散により中止せざるを得ず。 ＜中止理由＞ 講師より辞退の申し出あり。 コロナウィルスの再度の拡散、益々活発化の為。 政府より緊急事態宣言発令、参加者の生命最優先と考える。	＜下記効果を期待したが、来年度に持ち越しとする。＞ 「食材の調達～調理～食事時の努力～後片付け」まで一貫した、エコロジーを身をもって実践。	日頃何気なくやっていることであるが、新鮮な感覚にて自然に身につけてもらう。季節感を考慮。『継続が重要課題』	新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	環境政策課 自治振興費
地域医療講座開講事業	10	補助金	10	高齢社会に向けて、認知症等の防止・改善等に対する講座を開催する。	地域住民向け、生活する上の共助講座の開講予定	コロナ感染予防のため中止		令和4年度に実施予定	新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	地域支援課 自治振興費
子育て支援事業	577	補助金	577	あそびの広場（年間49回）を開催し、紙芝居や絵本、TVシアター等親子のふれあい遊びと子育ての悩み等を関係者とともに語り合う。	コロナウィルス感染対策の為ベビーマージ、ランチタイム、おやつタイムを中止していました。 午前の部（10時～12時）「10組」午後の部（13時～15時）「10組」の予約制で実施していました。	組数限定の予約制でも毎週木曜日を楽しみに、ほぼ同じ人達が集まり、親同士の情報交換の場になっていました。	子育て中のお母さん達の情報交換の場所だけでなく、子育ての悩みを一緒に考え合うようになり、気軽に今困っている事を話せる場になっていました。	通っていた子ども達が3才になり、子ども園に通いはじめたために、参加者が減少しました。新規参加者を増やすことが課題です。	親子の交流の場として地域に定着していると評価。引き続き感染症対策を徹底しながら、コロナ禍でできる取組を実施してほしい。校区内の地域子育て支援拠点と連携した取組、新規の方の参加を促すような取組を期待する。	子育て支援課 自治振興費
北豊島地域花いっぱい整備事業	120	補助金	120	地域の子ども達が安全に遊べる場の提供として、豊島北2丁目公園に花壇を作り花を育て、地域住民の憩いの場とする。また北小生が育てた花を地域の施設に配布し、地域全体に潤いをもたらす。	①豊島北二丁目公園にて「地域の高齢者休憩所、幼い子供たちの遊び場、若いお母さんへの憩いの場を提供」し、四季の変化を体感。維持を継続していく。地球温暖化の影響による暑さ対策急務。 ②北小の生徒さんが育てた花を北小構内及び地域施設（共同利用施設高齢者介護施設等）に配布し地域全体に憩いを持たせたい。	①6/26、11/23の2回/年 実施場所…豊島北二丁目公園 園芸高校の先生/生徒さんの指導を受け、計30人で花壇に季節にあった草花を植え替え、いやしを与え楽しんで頂くため実施しました。 ②10/12（花植え）、12/14（花配布）の2度作業/年北小3年生の皆さんと苗を植え配布しました。春には街に花を咲かせてくれるでしょう。	地域・季節における美化活動への意識付けをPRする。花の植え方・育て方等の実地講習を受け、花を可愛がる人の心に潤いを与え、子供が安心して遊べる安全で清潔な公園と喜ばれ。自動散水システム導入効果絶大。幸い花泥棒も減り、徐々に効果が出てきた模様です。	子供から高齢者まで、安心して和やかに過ごせる場所の確保。 年2回の花植え実施に園芸高校の先生/生徒さん・地域住民の皆さんの一層の協力を今後もいただく事が必要。 近隣の方の積極参加をいただける様努力する。花壇の維持管理を行う。花泥棒が減ったが、注意喚起を怠らない。北小の生徒さんが育てた花を北小構内及び地域施設に増やしたい。	地域住民と園芸高校との交流が深まり、美化活動への意識づけ、憩いの場の提供に役立っている。	公園みどり課 自治振興費
計	4,738			事業提案限度額	4,738千円	次年度繰越金額	0千円			

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和3年度執行）

くれば地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
	交付金	補助金									
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								コミュニティ推進課 自治振興費
青バト隊パトロール活動事業	214	9 205	青バト隊による地域巡回活動を行い、各種犯罪の抑止に努め、安全な地域環境をつくる。	青バトでの呉服小学校区内巡回パトロール実施により、各種犯罪の抑止効果を図る。	呉服会館敷地内に設置した青バト駐車場を拠点に、隊員による巡回回数や巡回範囲の拡充を図ることで地域の安全確保ができています。	呉服小学校区内の細い道まで巡回範囲を広げることで、各種犯罪の抑止効果に車両を活用できた。	より一層の巡回活動の充実を図る。	各事業責任者の意見を聴き、協議会で決定する。	コロナ禍でイベント等の開催が難しい中、各種の備品等の充実がより一層図られたものと評価。自治会・学校ともしっかり連携の上、当該備品の適切な管理運用をお願いするもの。	今後も引き続きパトロール活動の強化に努めていただきたい	危機管理課 一般管理費/自治振興費
地域防災体制強化等事業	480	480	近年多発する災害等に備えるため備品を購入する。	災害等に備え、地域住民の安全対策を行いたい。	災害対策として非常用毛布を備えた。	もしもの時に対応できるように備えが出来、地域住民に少しでも安心してもらえた。	災害時に必要な備品をそろえていきたい。			今後の災害時に備えた備品整備を評価	危機管理課 災害対策費
地域内会館設備改修事業	439	439	地域内会館の設備改修を行い、利便性を向上させる。	地域内における会館施設の設備が老朽化している。	地域内における会館施設の設備を改修し地域住民の利便性を向上させることにより、利用者の賛辞の声を届いた。	老朽化した設備を改装することにより高齢者も利用しやすくなり大いに歓迎されている。	他の共同利用施設等の設備も改修を検討していきたい。			トイレの洋式化により、会館の利便性が向上したものと評価。会館利用者の増加につながることを期待。	コミュニティ推進課 地域集会所施設管理費
地域掲示板設置事業	904	904	老朽化した地域の掲示板を取り替え、地域団体と共に使用出来るようにする。	地域内にある掲示板の老朽化が激しいため、広報活動に支障があった。	老朽化した掲示板に変わり、新たに設置した掲示板は、ワイドで大きなポスターも充分張ることができ、住民からも賛辞の声があった。	ワイドで見やすい掲示板に付け替えたため、地域の広報活動が活発化した。	地域のお知らせや地域コミュニティ推進協議会の活動も、この掲示板を通じて地域住民に広く知らせることが出来る。今後も広報活動の充実を図る。			各自自治会と連携の上、地域情報の広報手段拡大に寄与したもの。適切な維持管理をお願いするところ。	コミュニティ推進課 自治振興費
AED管理事業	319	319	地域住民の安全・安心のため、地域内の会館にAEDを設置し、早期の救命措置に備える。	地域住民の安全・安心のため、地域内の会館にAEDを設置し、早期の救命措置に備える。	AED設置により、地域住民の安全・安心が向上した。	地域住民の安全・安心意識の向上	地域内には、まだまだ設置が進んでないので設置を順次検討していきたい。			共同利用施設にAEDを配置することで、多くの住民の安心感を得ることが出来る。今後も引き続きAED設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていただきたい。	健康増進課 保健衛生総務費
街路灯強化事業	155	20 135	夜間の事故や犯罪を未然に防ぐため、街路灯の設置及び維持管理を行う。	地域内の街並みでうす暗い道路等に街路灯を設置し、安全確保に努める。	地域内に街路灯を設置することにより、夜間の安全を確保することができた。	市民が通行する道路に街路灯を設置したことで、地域住民から安心して夜間の通行ができるとの喜びの声がかえってきた。	地域内のうす暗い場所等に安全確保のため、街路灯の設置を進めていきたい。			街路灯の設置により、地域内の夜間交通の安全確保が図られた。	土木管理課 交通対策費
呉小吹奏楽クラブ支援事業	461	461	呉小吹奏楽クラブの楽器購入を支援する。団体の活動支援を行う。	呉小吹奏楽クラブの楽器が老朽化して、正確な音程を出せない状態である。	老朽化した楽器を新規購入することで、古い楽器を新しく入ってくる児童の練習用に活用している。	新しい楽器演奏で技術の向上に役立つとともに、練習用の楽器ができたことで更なるレベルアップが図れ「全国大会金賞」を受賞した。	年々老朽化する楽器を計画的に買い替えることがこれからは必要と思われる。			使用可能な楽器の一層の充実により、児童の演奏技術の向上に繋がった。	教育総務課 学校管理費
市民レクリエーション大会事業	350	350	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。コミュニティ意識の向上に努める。	地域のスポーツ振興会が開催している市民レクリエーション大会を支援する。	コロナ禍のため、実施出来なかった。		他地域の行事報償費とも検討し、校区の市民レクリエーション大会が活性化するように努める。			新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	生涯学習推進課 社会体育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	517	517	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸配布する。	協議会の存在や活動内容について、地域全体に広報することで理解を深めている。	コロナ禍のため、発行出来なかった。		今後も益々内容の充実を図り、毎年実施している事業のお知らせや協議会への参加を促進していきたい。			新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	広報シティプロモーション課 自治振興費
合同防災訓練事業	183	183	不慮の災害時、地域住民と協力し難局を乗り越えられるよう、住民相互による協力関係を構築するため、呉服小学校区内の合同防災訓練を実施する。	校区内での防災訓練は、8自治会で実施して、実際の災害が発生した場合を想定した上で、地域住民同士が一体感を得ることができた。	コロナ禍のため、実施出来なかった。		防災訓練の内容をより充実させることにより、地域住民との信頼関係をさらに向上させること課題と思える。			新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	危機管理課 自治振興費
地域コミュニティ推進協議会拠点管理運営事業	2,355	2,355	呉服会館を地域コミュニティの拠点施設として管理運営を図る。	共同利用施設呉服会館の一室を地域コミュニティ推進協議会の活動拠点として、備品等の整備を進めている。	地域コミュニティの拠点として、「WiFi」の導入など地域活動の活性化が図られた。	協議会における役員会や各部会の活動が活発に展開され、地域分権推進に大いに役立っている。	小会議室の再整備と備品購入で協議会活動の更なる活性化を図る。			コロナ禍の状況下にあっても、コミュニティ機能の維持に寄与しているものと認識。適切な運営をお願いするところ。	コミュニティ推進課 自治振興費
地域内会館備品整備事業	127	127	地域内会館の備品整備を行い、利便性を向上させる。	地域内にある会館施設の備品が老朽化していて安全面で不安がある。	共同利用施設の老朽化した備品を新規に買い換える、改装、整備することにより、利用者の賛辞の声を届いた。	老朽化した備品を新規に買い換える、改装、整備することにより企画行事が円滑になり大いに歓迎されている。	他の共同利用施設等の備品も買い換えを検討していきたい。			細かい備品の整備が多いため、しっかりとした管理に努められた。	コミュニティ推進課 自治振興費
くれば祭り開催事業	600	600	くれば祭りを各種団体と協働で開催する。地域の人と人との繋がりを深め地域コミュニティの活性化を図る。	くれば地域内のコミュニケーションの充実を図ることを目的に合同で祭りを開催する。	コロナ禍のため、実施出来なかった。		地域内のコミュニケーションを今後も積極的に図り、地域のつながりを広げていきたい。			新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	空港・観光課 自治振興費
リユース活動事業	60	60	家庭で不要になった子ども服等を融通しあうことでリユースを推進する。	衣服に名前を書いてしまっているような衣料品は店舗での引き取りをしてもらえず捨ててしまわなければならないので、融通しあう家庭で不要になった子供服をリユースする。例年呉服小学校の体操服リユースも行っているが、新型コロナウイルスの影響で今年度は回収のみを行った。	コロナ禍のため、実施出来なかった。		どうしても衣類が余ってしまうので余った分を施設等へ寄付したい。			新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	環境政策課 自治振興費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和3年度執行）

道路安全対策事業	300	補助金	300	児童が登下校の際に利用する通学路にグリーンベルトを設置し、児童の安全を確保する。	児童の登下校時に利用する通学路に、交通事情の激しい危険な箇所があり、交通事故が発生しないかと気になっていた。	危険な交差点を着色して目立たせる。	目立たせることにより通行者の注意喚起になった。	地域内には、まだまだ危ない箇所があるので、順次設置に向けて対応したい。	グリーンベルトの設置により、通行の安全性が向上した。	土木管理課 自治振興費
呉服小学校花いっぱい運動支援事業	140	補助金	140	地域と学校と一緒に実施する「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動の支援を行う。	地域と学校と一緒に花を育てる活動を支援する。 満寿美町内にあるプランターの手入れ	「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動を支援する。 満寿美町内に緑が増えた	呉服小学校と地域と一緒に花を育てるプロジェクトに参加し、子ども達が花を育てる喜びを感じ、感性豊かな心を育む事ができた。 地元の方々に好評を得た	感性豊かな子ども達を育てていく事業にも、今後とも積極的に対応していきたい。	花を育てることで感性を育み、併せて地域と学校の更なる連携強化を図りたい。	公園みどり課 自治振興費
地域内学校園設備支援事業	356	補助金	356	地域内の学校園において開催される各種地域イベントにて必要となる備品の整備を行う。	地域内の学校園においてイベントや行事などで必要な備品が不足していた。	必要な備品の整備を行う。	学校関係者だけでなくPTAや地域の人にとって利便性が増した。	安心して教育が受けられる環境を整えていきたい。	各種行事に必要な備品を整備することにより、学校関係者だけでなく地域の人にとっての利便性が増した。	教育総務課 自治振興費
キッズランド支援事業	30	補助金	30	呉服小学校で行われている「キッズランド」で使用する用品を購入し、子育て支援を推進する。	地域内の呉服小学校のキッズクラブに遊具備品を整備し、子育て支援を推進する。 要望が市民からあった。	地域内の呉服小学校のキッズクラブに遊具備品を整備することにより、子供たちの環境が改善した。	子育て世代の市民は日々負担増であるが、少しでも安心安全の助けになっているので大いに歓迎されている。	今後も支援していく。	今後も支援は必要と考える	教育センター 自治振興費
グラウンドゴルフ実施事業	90	補助金	90	高齢者と若者が一緒にグラウンドゴルフを行い、スポーツを通じて地域コミュニケーションを図る。	グラウンドゴルフの普及とスポーツを通じての地域のコミュニケーションを図る。	コロナ禍のため、実施出来なかった。		若者の参加が得られなかったことなど、今後の広報活動や運営の方向性に検討の余地あり。	新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	生涯学習推進課 自治振興費
計	8,180			事業提案限度額	10,241千円	次年度繰越金額	2,061千円			

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和3年度執行）

石橋地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
	交付金	補助金									
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								コミュニティ推進課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	835		電気使用料 53 設備保守点検委託料 203 機器借上料 579 安全で安心な暮らしの実現に向け設置した防犯カメラの維持管理を行う。	一部死角になり不安全、及び、犯罪者の逃走経路となるのではとの指摘及び、要望有り。	設置箇所も増え、安全で安心な暮らしが出来る。又、第三の目(者)による長期休暇(夏休み/大型連休)期間中の見守りが可能となる為、継続とする。	設置箇所が増えたことによる抑止効果ありと判断します。	リースのような、安価な設投で、管理費の低減を図る。又、家庭用防犯装置費用支援/援助策を提案し、各家庭への防犯装置設置希望者を募り、自らの防犯意識向上を促進させ、地域一丸となった防犯対策を実施する。又、他地域(行政)が取り組んでいるドローン等を活用した防災/防犯体制及び地区放送も再度提案/検討し維持管理(資格免許/教育含め)の促進。	各部会でまとめられたものを、役員会で決定する。	要支援者への訪問を電話やインターフォン越しで行ったり、防災訓練を2部制とするなど、コロナ禍にあっても柔軟に対応しながら、とりわけコミュニティの安全安心に寄り添っていたものと評価。	継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む	危機管理課 自治振興費
地域内会館備品整備事業(石橋北会館)	258		庁用器具費 258 地域内会館(石橋北会館)の備品整備を行い、利便性を向上させる。	利用者から膝、腰が悪く、和室利用の際、座位で立ち上がる折に痛く又、机等の備品の格納等に苦慮していた。	利用者からの要望に合致した、備品が配置されて好評である。	利用する高齢者も机、椅子ともに軽く出し入れ等がスムーズに出来て、参集する会議が増えている。	会議等のリーダーに共同備品であることを利用者に意識、認識を周知徹底を図る。現状畳敷きの上にカーペットを敷いて利用しており、洋式様にフローリング様式にリホームしたい。		会館の利便性が向上したものと評価。積極的にご利用いただきたい。		コミュニティ推進課 地域集会所施設管理費
コミュニティ倉庫設置事業	221		修繕料 221 井口堂財産区が所有する管理地内に倉庫を設置し、地域内の各種団体の利便性の向上を図る。	防災道具やイベント利用備品の収納場所が手狭となり学校の倉庫を借りて収納している。	設置が1年延期された事業であった。学校倉庫に収納された物は、整理されているがコロナウイルスの感染拡大で移動が出来ず現状である。	コロナウイルスの感染拡大で現状維持であり、感染防止強化期間が解除され次第、選別格納する。	備品格納明細を記し利用後の格納時、保管確認者を配置して混載を防ぐ。		各種団体と調整の上、公平かつ適切な活用をお願いするところ。		コミュニティ推進課 自治振興費
地域行事等活動促進事業	400		行事報償金 400 納涼大会等を実施する地域団体に電気設備設置及び活動運営を支援して、コミュニティ活動の充実を図る。		コロナウイルスの感染拡大で中止				新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価		空港・観光課 自治振興費
市民レクリエーション大会事業	200		行事報償金 200 地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の向上とコミュニティ活動の充実に努める。		コロナウイルスの感染拡大で中止				新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価		生涯学習推進課 社会体育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	410		補助金 410 地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸配布する。	コミュニティ各部会が行う事業や関心のある課題を住民に周知することでコミュニティの存在と役割を知ってもらう事業。	年間2回のコミュニティ紙の発行事業で、旭丘、井口堂及び石橋における活動内容と地域性を広く伝達できた。	コロナ禍に関係したこと、地域ボランティアの人材募集、学校と地域のつながり、石橋コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く周知することが出来た。	コロナ禍のボランティア活動に及ぼす影響と対応、自然災害時の対応、ボランティア人材募集、敬老の里プロジェクト、等の記事を扱いたい。		地域情報だけでなくコロナ禍の状況や身近な生活情報などがバランスよくまとめられていてわかりやすい。引き続き石橋の住民が興味のある地域の話題を紹介してほしい。		広報シティプロモーション課 自治振興費
避難行動要支援者対策事業	292		補助金 292 石橋小学校区の要支援者のうち、要支援に同意された家庭に対し、定期的に安否確認を行い、非常時には避難誘導に努める。	引き続きの事業でもできている	要支援者への顔なじみ	地区の要支援者の近況や所在確認した	コロナ禍で、実際にお会いすることも出来ないながらも、委員が電話やインターフォン越しでお聞きすることもあり、不審がられることも少なくない。早くコロナの心配なく対面で安心して対応できることを祈念する		協議会を立ち上げ、事業を実施していただいている功績を非常に大きく評価し、個別避難計画書の紛失防止ファイルの導入も評価するとともに、引き続きコロナ禍での対応ではあるが継続的な事業の実施に期待		危機管理課 自治振興費
地域防災体制強化等事業	1,043		補助金 1,043 自主防災組織の体制強化を図るため、防災倉庫に防災備品を整備する。また、防災訓練を関係各所の協力のもと実施する。	緊急時に誰が何をどうするべきなのか知識及び経験が不足しているため、緊急時の対応が取れない、又、新型コロナが発生した場合の避難及び避難所での対応方法等についての新しい知識習得も必要不可欠となります。	組織網の整備及び、緊急時の対応(訓練ではあるが)体験及び各種(新)知識の向上が図れた。又、状況に応じた、訓練方法の変更(2部体制)も滞りなく遂行できました。 ・1部(午前の部)：石橋小学校110名 ・2部(午後の部)：石橋中学校130名 又、備品購入に於いて、コロナ禍での各種災害時の避難を考慮しての購入項目変更/選択、ならびに、燃料(石油系)高騰の中、脱炭素に向けた停電時対応用の電源確保に向け(太陽光利用)用に発電機(エコ)も購入し、使い勝手を検討した上で、今後、各家庭への推奨アイテムの一項目として提案出来る様テストを実施。	地域住民、学校、施設他及び行政の協力の下、連携を取りながら訓練が出来た。今回は特に2部体制としたことによる学校の教職員様のご理解及びご協力に感謝いたします。参加者各自の経験となり記憶の片隅にでも残れば、いざという時の助けになると期待します。同じことの繰り返しではあるが、継続は力なりを念頭に継続実施必須。	各種の災害時(発生時間)に即対応出来るか、訓練内容(夜間含め)を変えつつ継続実施する。学校の設備に頼らず、公園等にて何も無い場所でも一から炊き出し等が可能かやってみる価値あり。又、傷の手当他、身近にある品物を応用し、簡単に出来る方法等も織り込んでの実施としたい。		災害時における地域の防災力向上に期待するとともに、地域住民を巻き込んだ活動は、共助の推進に大きく貢献していることを評価		危機管理課 自治振興費
地域内会館備品運営事業	400		補助金 400 井口堂北会館に整備した備品の運用を行う。	コピー印刷機設置以前は各団体が各自でコピー等でコピーをとっていたがかなりの費用と時間をとっていた。	コピー印刷機設置後は各団体が会館でラジヤレジメ等印刷出来ることになり便利になった	費用、時間ともに短縮軽減出来、各団体及び地域の住民に多いに利益をもたらしている。特に枚数が多い場合、他の人に迷惑をかけずにすみ喜ばれている。	設置場所が会館の二階の廊下に置いているため部屋の中に設置したい。		設置場所については、早期の解決に向けてあらためて検討を求めているもの。		コミュニティ推進課 自治振興費
リサイクル活動事業	30		補助金 30 ペットボトルキャップの回収リサイクルを行う。資源の有効利用を図ると同時に住民の意識を高める。	キャップ回収量増加によるボックス不足、人材不足、他地区からの依頼にどう答えるかの課題	今年度井口堂北会館南側に2個増設、コミュニティの地域交流部会員の協力参加、さなえの森、福祉センター2階。	他地区内のボランティアが運んで来てくれるようになり、増量課題の解決にすすんでいる。	長年続く事業であるので、初心にもどって、地域の小、中学校への(SDGs)協力参加を再度、働きかけることが必要になって来た。		活動の広がりにより、リサイクルの推進と市民への啓発が効果的に実現できていると認識。		環境政策課 自治振興費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和3年度執行）

交通安全モラル啓発事業	50	補助金	50	車・人・自転車の事故減少及びマナー向上のため、交通安全モラル教室を開催する。	一旦停止無視/スピードの出し過ぎ/無灯火ながら(スマホ操作他)運転等、手本となる成人が違反行為を繰り返す、罰則に抵触する知識の欠落及び自転車の正しい操作方法等の知識不足且つ、賠償保険の重要性に乏しく、年々賠償保険金額の上昇等、無知では済まされない状況下である。	本年度も新型コロナウイルス感染拡大防止等により、行政指導に基づき、安全運転教室は中止としました。今後の状況も踏まえ、一同に揃っての講習会等が出来ない場合を考慮し、いつでも、どこでも好きな時間に、リモート等での勉強会実施、各家庭での教育ビデオ鑑賞が可能になるようビデオの貸し出し等新たな提案を実施予定。	新型コロナウイルス感染拡大防止の行政指導により、安全運転教室等を中心とした中止した場合でも、各学級並びに各個人毎に、リモートを含め、密に関係なく勉強会の実施が可能となり、知識の向上及びモラル向上が図れ、安全に結びつく。家族ぐるみでの知識向上が図れる。	子供達を中心に継続実施はするが、指導者であるご両親・おばあちゃん及びおじいちゃんへの指導(認知向上)及び注意が急務と思われる。他、保険への加入促進、並びに自転車の点検等地域の自転車店様のご協力の下、展開が必要である。今回のような異常事態が今後もありうることも想定しながら、臨機応変に対応が可能となる仕組み及び、運営方法の検討も考えつつ、日々の地道な地域住民の協力の下、自転車だけでなく、交通安全全般に全員で取り組む必要性あり。	新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	交通道路課 自治振興費	
地域美化整備事業	150	補助金	150	花や緑にあふれた「美しいまちづくり」を目指し、花を育てて、保育所、学校、各施設にプランターの花を贈呈する。	継続して地域の公園を整備し、花を植えて美しい街にしていった	雨で流れる土を整備しやすくするため杭を用意した。引き続き地域に花を植えたプランターを配布した。	小学校との交流として、ペットボトルキャップを回収してできたプランターに花を植え、生徒たちに資源回収の大切さや回収された後がプランターになるという面白さを伝えたこともこの事業の目的である。	公園の夏の間の水やりの大変さは 毎年の課題である。水やりをあまり考えないですむ美化整備を検討中である	公園に花が溢れ訪れやすい公園になったが、水やりについての対策が必要。	公園みどり課 自治振興費	
三世交代事業	250	補助金	250	異学年交流により上級生は下級生をいたわり、下級生は上級生を慕い敬う人間関係を幼少期から育成する。					新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	教育センター 自治振興費	
計	4,639			事業提案限度額	9,636千円	次年度繰越金額	4,997千円				

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和3年度執行）

五月丘地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
	説明										
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100									コミュニティ推進課自治振興費
防犯カメラ新規設置事業	37	電気使用料 2 機器借上料 32 電柱等共架料 3	安全で安心な暮らしの実現に向け、街頭犯罪件数のさらなる減少を図るため、防犯カメラを設置する。	校区内に21ヶ所の防犯カメラが設置されていた。	新たに1ヶ所の防犯カメラを設置し、全22ヶ所となった。	防犯カメラは犯罪被害の未然防止や犯罪の予防の有用性が認められている。地域の安全で安心な暮らしの実現を目指すために有効と考える。	22ヶ所で十分とは言えず、設置を増やしてほしいとの地域ニーズがあるが、別途、市が設置済の防犯カメラもあり、設置場所については、無駄を省くように注意する必要がある。また毎年の維持管理費用が増えることが課題である。	各部会からの報告を受け、役員会でまとめられたものを総会で決定する。	前年度と同様に感染症対策に工夫を凝らしながら、またその時々々の社会情勢・感染状況を見極めながら、各種事業を積極的に実施いただき、コミュニティのつながりの強化に寄与したものと評価。	地域防犯のため、積極的に防犯カメラを設置いただいている点を評価するとともに、費用対効果を勘案した管理運用を望む	危機管理課自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	1,453	電気使用料 63 設備保守点検委託料 58 機器借上料1,332	防犯カメラの維持管理を行う。	21台の防犯カメラを管理している。	新たに1台増えて、全22台となった。	—	本維持管理費用が地域内会館設備改修事業を除いた本協議会予算の約29%を占めていることが課題である。			継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む	危機管理課自治振興費
緊急通報装置管理事業	1	電気使用料 1	緊急通報装置の電気代を賄う。	継続して緊急通報装置を管理している。	—	小学校や中学校への主要な通学路にあり、安心感があるとともに犯罪の抑止効果が期待できる。	昨年、本装置の機能点検を行った。使用頻度は少ないが、今後備えて定期的に点検や確認する機会を持ちたい。また設置後10年以上が経過し、認知度が薄れているので近隣への周知も必要である。			緊急通報装置の運用や、今後、犯罪抑止に繋がることを期待	危機管理課自治振興費
地域内会館設備改修事業	8,360	修繕料 8,360	五月丘会館の2階トイレを男子便所から、男子便所と女子便所に改修する。	共同利用施設五月丘会館2階のトイレが男子便所のみで、女子便所がなかった。	従前の男子便所を女子便所に改修し、隣接する和室の一部を男子便所に改修した。和室は押し入れの位置を変更し、床と壁の仕上げをやり替えた。	トイレを男女別とすることで女性が安心してトイレを利用することができる。トイレ内はバリアフリーで衛生器具は洋式で最新式となり、高齢者にも使いやすく配慮しており、会館利用者から評判がよい。	平成25年度に1階女子トイレを新設したので、現在1階男子便所のみが改修未実施である。			大規模な改修となったが、地域の利用者の視点を取り込まれ、会館の利便性が大きく向上したものと評価。	コミュニティ推進課地域集会所施設管理費
地域コミュニティ推進協議会拠点管理運営事業	981	機器借上料 132 パフォーマンス料66 インターネット使用料 133 補助金 650	地域コミュニティ推進協議会の事務所と、会員・地域住民が気軽に集える拠点の運営を行う。	継続して本協議会事務所を管理している。	同上。	事務所としての機能を発揮しているだけでなく、「五月丘まちづくりプラザ（通称まちプラ）」として、地域に開いている。開設して2年目となり、住民の貴重な声を直接聞くことができる。日常の身近な情報が寄せられている。	新型コロナウイルス感染対策としてWEB会議ができる環境を整えつつある。共同利用施設五月丘会館内にあるため、閉館日に入館できず、本事務所として使用できなくなり、不便である。			コロナ禍の状況下にあっても、コミュニティ機能の維持に寄与しているものと認識。適切な運営をお願いするところ。	コミュニティ推進課自治振興費
AED管理事業	43	消耗品費 43	地域内の各会館に設置したAEDについて、定められた消耗品の交換をし、正常に使用できるよう維持管理を行う。	校区内に3箇所のAEDを管理している。	ビューグランド池田五月丘に設置のAEDのバッテリーとパッドを交換した。	これまで安心感があると思っていたが、コロナ禍にあり、触れたくないという声を多く聞いた。	機器の更新時期が近づいている。今後、更新するか否かの検討が必要である。			コロナ禍であるがAEDを配置することで、住民の安心感を得ることが出来る。今後引き続きAED設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていきたい。	健康増進課保健衛生総務費
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金 200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。地域コミュニティ意識の高揚に努める。	校区スポーツ振興会主催の大会を支援している。	未実施。 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	—	—			新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	生涯学習推進課社会体育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	244	補助金 244	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	本協議会の活動内容を地域住民に周知するとともに、地域住民に必要な情報を発信するために、年に2回、A3版まちづくり通信(広報誌)を発行し、全戸配布をしている。	広報誌(五月丘まちづくり通信)を年2回発行できたが、掲載する内容が少なくA4版となった。	今年度は、新型コロナウイルス感染予防対策のために活動が制限される中、他団体の活動や学校の様子なども紹介できた。	幅広い層に情報発信し、本協議会の認知度を上げるため、従来の紙による配付に加えて、若い世代向けにSNS利用を取り入れていきたい。			コロナ禍で活動が制限される中、写真を多く使って、わかりやすくまとめられている。今後も幅広い層に伝わる地域の情報発信のため、有効な方法を検討してほしい。	広報シティプロモーション課自治振興費
地域防災訓練強化事業	50	補助金 50	防災意識向上のため、ポスターの製作と自主防災組織また属さない人も一緒に、防災訓練や勉強会を実施する。	毎年開催の五月丘1丁目・アルビス五月ヶ丘・五月丘5丁目の自主防災組織主催の合同防災訓練を支援し、本協議会も自主防災組織のない地域住民の受け皿となり参加している。	未実施。 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	—	—			新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	危機管理課自治振興費
地域防災体制強化等事業	499	補助金 499	万が一の事態に備え、防災備品を備蓄する。	昨年度、本協議会所有の防災備品を再点検した結果、交換が必要な備品や不足している備品があることがわかった。	けつコロナ、鍋、やかん、ブルート、救急医療セット、電池、ローソク、ラジオ、けつポン一式を購入した。	地域内の自主防災組織が所有している防災備品のリストもそれぞれが作成し、現在、地域内にある全ての防災倉庫の備品リストを整備した。その上で、本協議会所有の備品の多くは五月丘小学校内の防災倉庫に集中しているため、一部を五月丘1丁目及び5丁目の防災倉庫に移動し、分散配置することで、各地域で共助しやすい体制づくりを進めた。	備品の中には屋外倉庫内設置が望ましくないものも含まれ、保管場所が課題である。			災害時に備えた備品整備を評価するとともに、今後もローリングストックや適切な備品の保管を望む	危機管理課自治振興費
コミュニティサロン設置事業	260	補助金 260	地域の人々に情報交換や交流の活動場所としてコミュニティサロンを月2回設置する。	毎月2回、コミュニティカフェ五月丘(C.C.S.)を開催している。	昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために「カフェ」ではなく、コミュニティサロンとして場所を地域に提供したが、今年度はコミュニティカフェ五月丘(C.C.S.)として再開した。食事は出さず、ドリンクのみ提供している。	2012年度から本事業を始めて10年となる。地域に認知され、住民の憩いや交流の場として定着している。尚、会場内には電子ピアノを置いて、誰でも自由に演奏できる「サロンピアノ」としての利用も好評を得ている。	新型コロナウイルス感染拡大防止対策をとり、工夫しながら実施する必要がある。			コロナ禍の難しい状況の中でも、工夫をしながらコミュニティのつながりが強化に取り組んでいるものと評価。	コミュニティ推進課自治振興費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和3年度執行）

盆踊り大会支援事業	250	補助金	250	地域団体が実施する、盆踊り大会の運営を支援する。	校区スポーツ振興会主催の大会を支援している。	盆踊り大会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。テントが不足していたため、購入した。	テントは、盆踊り大会だけでなく、市民レクリエーション大会にも五月丘フェスタにも使用できる。	特になし。	コロナ禍でのイベントの中止についてはやむを得ない。購入した備品については大切に管理し、長期的に使用できるようにしてもらいたい。	空港・観光課 自治振興費
五月丘フェスタ開催事業	380	補助金	380	盆踊り、市民レクリエーションに次ぐ地域住民の交流・ふれあいの場としてフェスタを開催し、恒例行事として定着させる。	毎年、五月丘小学校で実施。内容は模擬店、ステージ、フリーマーケット、スポーツゲーム等。	未実施。 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	—	—	新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	空港・観光課 自治振興費
高齢者等の居場所づくり事業	220	補助金	220	独居老人の安否確認、認知症等の予防、高齢者が生きがいを持って生活できるよう支援する場を提供する。	毎月第3日曜日に、「おしゃべり広場」を開催していたが、昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のために未実施。	今年度は12月から再開した。2月からは新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止とし、今年度は2回の実施となった。	12月に実施したクリスマス会には70名の地域の方が来場され、ビンゴゲームに演奏会、楽しいおしゃべり等、大いに盛り上がり、楽しんでいただいた。コロナ禍であるからこそ、人々が交流できる場が必要で、それを求めていることが実感できた。本事業が2年ぶりに再開できた意味は大きい。	新型コロナウイルス感染拡大防止対策をとり、工夫しながら実施する必要がある。	2年ぶりに一部開催できたことは、外出を控えがちな高齢者にとって貴重な交流の場となっている。	高齢・福祉総務課 自治振興費
花プロジェクト事業	140	補助金	140	小・中学校関係者とともに協働で地域の人々が花を育て、花を通じて人々の心を豊かにする。	五月丘小学校の授業の一環として、また渋谷中学校のクラブ活動の一環として、年2回実施。	五月丘小・渋谷中学校教職員、PTA、地域住民の有志が協力して、子ども達と一緒に苗の植え込みを実施(小学校1000株、中学校800株)。 学校で育て、開花させた後は、校区内の自治会やふたに学園、池田五月山教会幼稚園、五月丘こども園、くすのき学園、郵便局、セブンイレブン五月丘店に花を配り、地域に花を増やしていく活動を実施した。	花を育てることを通じて子ども達の健全育成と、地域住民の心が豊かになることを期待する。	地域に配る花の数を増やしたい。校区が緑豊かなまちとなれるように目指したい。	地域住民、教育現場が連携し、花に溢れた街づくりや子供の健全育成役立つことで、継続が望ましい。	公園みどり課 自治振興費
イベント運営事業	180	補助金	180	地域交流や地域活性などに重点を置き、地域住民参加のイベントを行う。	グランドゴルフ(年2回)、里山教室(年2回)、五月山ハイキング、卓球教室を開催。	本協議会主催のイベントとしては11月に里山教室を開催、11月と3月にグランドゴルフ大会を開催。五月山ハイキングは校区スポーツ振興会主催のイベントでこれを支援した。卓球教室は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	中止となるイベントが多い中、実施できたイベントには多くの応募が集まった。コロナ禍で実施するイベントは、その中身もさることながら、地域内行事が少なく、人に会う機会の少ない人達が交流・親睦ができて元気になれる点で意義が大きい。	今後も新型コロナウイルス感染予防対策をしながら地域交流イベントの企画を検討していく。	コロナ禍中において住民の交流・親睦を生み出された点を評価。今後とも地域住民のつながりを創出するイベントの企画を検討・実施していただきたい。	生涯学習推進課 自治振興費
計	13,398			事業提案限度額	13,817千円	次年度繰越金額	419千円			

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和3年度執行）

石橋南地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額（千円）		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目（目）	
	交付金	説明										
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								コミュニティ推進課	
防犯カメラ維持管理事業	711	電気使用料 29 機器備上料 682	校区に設置した防犯カメラの維持管理を行う。引き続き地域内の犯罪の抑止と住民の安全・安心な生活環境を確保する。	当地区には既設3台、リース6台	カメラ設置に係る維持管理の為、定期点検を実施 正確な情報提供に努めた	必要に応じ、カメラの開示を実施した	継続	各部会（ブロック別）でまとめられたものを協議会で決定する。	前年度と同様に、市実施事業が多かったため、多くの事業が実施され地域に還元されたものと評価。 整備された防災備品等については適切な管理に努められた。また、引き続き協議会の体制強化が急務であるものと認識。	継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む	危機管理課 自治振興費 ／ コミュニティ推進課 地域集会所施設管理費	
地域防災体制強化等事業①	248	消耗品費 210 器具費 38	自主防災組織への資機材配備を充実させ、地域の防災体制の強化・推進を図る。（住吉2丁目新池公園）	前年度の倉庫の設置につづき資材の点検を実施	防災資源の補充を実施（LED投光器・救急セット等）	万一の災害に対する安全安心に寄与する	維持・管理に努める				危機管理課 災害対策費	
地域防災体制強化等事業②	611	消耗品費 120 修繕料 491	自主防災組織への資機材配備を充実させ、地域の防災体制の強化・推進を図る。（空港会館）	資材点検の実施	防災資源の補充（ブルーシート・土のう袋等）	万一の災害に対する安全安心に寄与する	維持・管理の継続				危機管理課 災害対策費	
地域防災体制強化等事業③	532	消耗品費 147 器具費 385	自主防災組織への資機材配備を充実させ、地域の防災体制の強化・推進を図る。（石橋駅前公園）	防災組織への資機材の補充が必要	工具セット・消火器・防雨型コードリール・シャベル等 インバータ発電機等の補充	防災機材の補充による安心安全に寄与する事が可能	維持・管理の継続				危機管理課 災害対策費	
地域内会館備品整備事業	271	庁用器具費 271	地域内会館の備品整備を行い、利便性を向上させる。	他室よりの移動使用により不便と室の「キズ付き」の不安があった。	不足分6台の机を補充する	「他室」よりの机の移動が不要となり利用の便に供する事が出来た。	安定維持管理				会館の利便性が向上したものと評価。適切な管理運営をお願いするところ。	コミュニティ推進課 地域集会所施設管理費
地域内会館清掃事業①	42	清掃委託料 42	地域内会館の清掃を行うことで、会館を清潔に保つ。	日常の軽易な清掃は実施している。	年一回の業者の作業の実施を委託した。	作業の併用により会館の美化は保っている。	引き続き実施していく				会館の適切な維持管理に寄与。利用者の増加につながることを期待。	コミュニティ推進課 地域集会所施設管理費
地域内会館清掃事業②	132	清掃委託料 132	住み込みの管理人のいない地域内会館の清掃を行うことで、会館を清潔に保つ。	日常の軽易な清掃は実施している。	年3回業者に作業を委託している。	作業の併用により会館の美化は保っている。	引き続き実施していく				会館の適切な維持管理に寄与。利用者の増加につながることを期待。	コミュニティ推進課 地域集会所施設管理費
道路安全対策事業	97	修繕料 97	歩行者の安全の確保するため、見通しの悪い交差点にカーブミラーを設置する。	空港1丁目見通しの悪い交差点がある。	上記地点にカーブミラーを設置した。	カーブミラーの設置により安全を確保した。	維持管理を継続。				道路反射鏡の設置により交差点通行の安全性が向上した。	土木管理課 交通対策費
今井水路改修事業	26	修繕料 26	今井水路がカーブしている場所でゴミが溜まっており、水が止まるとヘドロが乾燥し臭いがするため、ゴミ受けフェンスを設置し、清掃しやすい環境をつくる。	今井水路内でゴミがたまりヘドロ等臭気を発生する。	河川内に「ゴミ受けフェンス」を設置し、清掃しやすい環境を作る。	ゴミ収集が安易となり効果があった。	継続。				ゴミの回収、維持管理の効率化が図られ、臭気防止など環境改善にも効果があった。	土木管理課 用排水対策費
公園整備事業①	480	修繕料 480	住吉2丁目新池公園内に災害時にも利用できるかまどベンチを設置する。	一般公園として地域の住民の利用に供している。	公園内に「かまどベンチ」を設置する事により、災害時の利用に供する事が可能とした。	公園内に「かまどベンチ」を設置する事により、災害時の利用に供する事が可能とした。	継続管理。				災害時の有効利用に供する為、継続管理。	公園みどり課 公園費
公園整備事業②	1,439	修繕料 1,439	石橋駅前公園内のコンセントを増設し利便性の向上を図るとともに季節を感じられる植木を植樹する。	公園内の植栽関係の整備と施設の利便性を図る。	植栽の整備により環境の向上と「コンセントの増設」により施設利用の利便性の向上を図った。	植栽の整備により環境の向上と「コンセントの増設」により施設利用の利便性の向上を図った。	維持管理の継続。	公園利用者の利便性向上に役立つ。	公園みどり課 公園費			
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金 200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の向上に努める。						新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	生涯学習推進課 社会体育振興費		
地域コミュニティ紙等発行事業	275	補助金 275	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	地区内の活動状況・事業実施状況を地区住民にPRする。	年間3回発行し、地区内全戸に配布した。	当会の活動状況の理解に寄与した。	継続。	コロナ禍にもかかわらず、予定通り3回発行していることが素晴らしい。引き続き地域住民のためのわかりやすい地域情報誌の作成に努めてほしい。	広報シティブロモーション課 自治振興費			
ハザードマップ作成事業	219	補助金 219	災害時における避難場所の確認など地域住民が安全対策を再確認する機会とし、不測の事態に備えるため、平成24年度に作成したハザードマップの更新を行う。	地区内危機箇所の確認。	新しい危機箇所等の記載により更なる身近なマップとして活用する。	災害時の安心・安全の一助となる。	地区住民の有効活用を期待する。	災害時に備えた地域独自のハザードマップ作成を大きく評価するとともに、今後の有効性及び事業の継続（数年ごとに更新）に期待	危機管理課 自治振興費			
地域内会館管理運営事業	362	補助金 362	地域内会館の管理運営を行い、会館利用者の利便性の向上を図る。	会館フリーWi-Fi設備・コピー機設置の継続	会館利用者の利便性の向上に寄与した。	会館利用者の利便性の向上に寄与した。	継続。	会館の利便性が向上したものと評価。適切な管理運営をお願いするところ。	コミュニティ推進課 自治振興費			

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和3年度執行）

地域内会館設備改修事業	171	補助金	171	地域内会館の設備改修を行い、利便性を向上させる。	会館利用者の備品・資材の保管に問題あり	会館内の設備の改修（棚の設置等）により保管の利便性を確保した。	利用者より好評、喜ばれた。	継続。	会館の利便性が向上したものと評価。適切な管理運営をお願いするところ。	コミュニティ推進課 自治振興費
地域行事等活動推進事業	165	補助金	165	地域で開催される行事等を主催する団体に対し、活動に係る支援を行う。					新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	空港・観光課 自治振興費
石橋南地域花いっぱい運動支援事業	57	補助金	57	石橋南小学校で花苗を育て、校庭や地域の公園に植え替えることで、まちの緑化を志すボランティアの育成や児童に命の大切さを伝える。	石橋南小学校児童により花苗を育て、校庭や施設、地域公園等に植付ける。	地域の美化を志すボランティア精神の育成と命（花）の大切さを体感させる事に役立った。	地域の美化を志すボランティア精神の育成と命（花）の大切さを体感させる事に役立った。	継続支援。	継続して実施することで、緑の大切さを実感し、ボランティア精神の育成にも繋がる。	公園みどり課 自治振興費
計	6,138			事業提案限度額 12,746千円	次年度繰越金額 6,608千円					

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和3年度執行）

鉢塚・緑丘地区コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)	
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。							コミュニティ推進課自治振興費	
防犯カメラ維持管理事業	820	電気使用料 29 機器借上料 791	安全で安心な暮らしの実現に向け、街頭犯罪件数のさらなる減少を図るため設置した防犯カメラの維持管理を行う。	防犯カメラがあることで安心できる。	毎年保守点検をしていただいているので問題なしと思われる。	特に大きな問題は起こっていない。	維持管理	各部会でまとめられたものを役員会で決定する。	前年度と同様にコロナ禍により多くのイベント等が実施できなかったが、一方で会館や公園などのハード整備が図られ、利便性が向上したものと評価。地域における適切な管理を期待するもの。	危機管理課自治振興費	
地域内会館設備改修事業	456	修繕料 456	地域内会館の設備改修を行い、利便性を向上させる。	水道設備が古く使いにくかった。	水道のカランがスムーズに動くようになった。見た目もきれいになった。	調理室を利用なさる方々から喜んでいただいている	維持管理			コミュニティ推進課地域集会所施設管理費	
AED管理事業	52	消耗品費 52	地域内の各会館に設置したAEDについて、定められた消耗品の交換をし、正常に使用できるよう維持管理を行う。	会館のAEDについて更新時期がきた。	正常に使用できる状態になった。	住民に安心していただける。	屋内にあると閉館時に使えない。			健康増進課保健衛生総務費	
防犯灯強化事業	476	修繕料 476	安全・安心なまちづくりの一環として、夜間の公園を明るくし、防犯対策強化を目的に防犯灯を整備する。	水月公園内の外灯が暗く、冬場子供たちが帰宅する際に危なかった。	足元を照らす外灯をふやした。	子供たちが安心して公園から帰宅できる。	公園内の防犯体制。お年寄りなどの安全。			公園みどり課公園費	
市民レクリエーション大会事業	350	行事報償金 350	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。地域コミュニティ意識の高揚に努める。							新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	生涯学習推進課社会体育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	200	補助金 200	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。							新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	広報シティプロモーション課自治振興費
地域防災体制強化等事業	150	補助金 150	自主防災組織の体制強化を図るため、備蓄品の充実を図る。また、防災訓練を関係各所の協力のもと実施する。							新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	危機管理課自治振興費
地域イベント開催事業	550	補助金 550	花菖蒲まつりで移動動物園と野だての会を開催し、来園者に楽しんでいただく。							新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	空港・観光課自治振興費
オータムフェスティバル開催事業	200	補助金 200	緑丘小学校において校区全体の交流を目的としたフェスティバルを開催する。							新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	空港・観光課自治振興費
ふれあい落語会開催事業	180	補助金 180	本格的な落語を身近に鑑賞できる機会をつくるためのイベントを開催する。							新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	人権・文化国際課自治振興費
健康啓発講座開催事業	100	補助金 100	増加する認知症患者に対する正しい知識と対処法、予防法等を啓発するための講座を開催する。	健康啓発講座も回を重ねてき、多くの情報を伝えてきている。	新しい体操なども取り入れ参加者の皆さんに良い情報をフィードバックできている。	認知症に対し恐れることなく予防、介護していくための一助となっていると思われる。	新しい情報をどんどんお示しできたらよいと思う。	認知症の方やその家族が地域の住み慣れた環境で自分らしく暮らし続けるためには、認知症に対する地域の理解を深めていくことが重要であるため、引き続き啓発活動を進めていきたい。	地域支援課自治振興費		
子どもの居場所づくり事業	170	補助金 170	子どもたちが地域の大人や友達と、一緒に遊びや勉強等をする場を提供することで、子どもたちの居場所をつくる。	今まで子供たちをターゲットにした事業展開をしてきたが、子育て支援には地域の大人も一緒に輪の中で行うのが良いと思い前年度より内容を少し変更した。	親子で同じ空間でダンスや歌に熱中している姿が見られた。	方向は間違っていないと思う。	子育て支援だからと言って、子供だけをターゲットにした事業展開では片手落ち。親はもちろん地域の大人を巻き込んだ事業展開が望ましい。	休日地域住民と子どもが交流できる居場所を提供することで、地域の異世代交流が深まるとともに、保護者への子育て支援につながったと評価。伝統文化や習慣の行事の実施等、地域での取組に期待する。	子育て支援課自治振興費		
水月公園改修事業	1,290	補助金 1,290	老朽化した水月児童文化センター前のステージ周辺を整備する。	木製の舞台がささくれ立ち、子ども達が怪我をする。芝生が剥げてきて不細工になっていた。	舞台を木製からサイディング製にかえた。芝生を張りなおした。	木製ゆえの怪我はなくなった。芝生もきれいになった。	芝生の維持管理。	改修工事により、子供たちが安全に利用できる場が提供された。	公園みどり課自治振興費		

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和3年度執行）

地域内学校園設備支援事業	206	補助金	206	地域内の学校園において開催される各種地域イベントにて必要となる備品の整備を行う。	ポータブルの放送設備の老朽化	Bluetoothユニットを組み合わせたため、幅広いソースの音を使う事が可能になった。	とても使いやすく便利になった。	丁寧に扱う。	各種行事に必要な備品を整備することにより、学校関係者だけでなく地域の人にとっての利便性が増した。	教育総務課 自治振興費
緑丘小学校イルミネーション支援事業	60	補助金	60	イルミネーションコンサート時に使用するツリーライトのLED化を支援する。	古い電球のイルミネーションが残っており電気料金もかかっているであろうと思われる。	少しずつLEDに置き換えていっている。	電気料金も少しずつ下がっているのではないと思う。	効果を出すために、来年度古い電球をすべて置き換えようと思っている。	イルミネーションを点灯することで、地域住民が足を止め、交流する機会と場をつくることのできた。	教育政策課 自治振興費
キッズランド支援事業	50	補助金	50	心豊かでたくましい子どもを地域全体で育むため、大人が指導員となり遊びやスポーツ、文化活動を通じて交流を図る。					新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	教育センター 自治振興費
オペラ鑑賞会開催事業	820	補助金	820	わかりやすい日本語によるプロのオペラを鑑賞し、親と子、地域住民との交流を図る。					新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	生涯学習推進課 自治振興費
計	6,230			事業提案限度額	8,136千円	次年度繰越金額	1,906千円			

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和3年度執行）

神田地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)	
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。							コミュニティ推進課 自治振興費	
防犯カメラ新規設置事業	674	電気使用料 24 機器借上料 640 電柱等共架料10	安全で安心な暮らしの実現に向け、街頭犯罪件数のさらなる減少を図るため、防犯カメラを設置する。	神田小学校、消防分団横の2ヶ所しか防犯カメラがなかった。 神田地区にて白屋空き巣泥棒に入られるという事態が発生。	神田地区の出入りをカバーする15ヶ所に防犯カメラを新設した。	神田地区への不審者の出入りがキチンとみれるようになった。 事故抑止効果が期待できる。	各部会からの報告を受け、役員会でまとめられたものを総会で決定する。	各自治会・町内会の意見をとりまとめ、防犯カメラを一斉に設置。地域内の調整役として機能しているものと評価。一方で協議会の体制強化は引き続き大きな課題であると認識。	地域防犯のため、積極的に防犯カメラを設置いただいている点を評価するとともに、費用対効果を勘案した管理運用を望む	危機管理課 自治振興費	
防犯カメラ維持管理事業	34	電気使用料 5 設備保守点検委託料 29	事故や犯罪を未然に防ぐ為の防犯カメラが正しく機能するよう、保守点検等の維持管理を行う。	29年度に神田消防分団近辺・脇塚の中国道下の地下道に防犯カメラを2台設置合計3台の維持管理が必要。	3台のカメラについては、令和元年度も保守点検等の維持管理(電気料含む)費用が発生。 令和2年度は神田東公園設置分は撤去することになった。(道路公園との関連)	防犯カメラの映像がキチンとみれるようになった。 事故抑止効果が期待できる。			継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む	危機管理課 自治振興費	
地域行事等活動促進事業	200	行事報償金 200	地域で開催される盆踊り等の行事を支援し、コミュニティ意識の高揚を図る。	神田小学校区盆踊り大会が、地域の寄付・市からの定額支援で実施されており、出店等の収益で予算不足をカバーしていた。	市からの定額支援より多くの金額の支援ができた。 令和3年度も残念ながら新型コロナ関連で盆踊り大会は実施できなかった。	地域行事の活性化が図れた。 令和元年度は天候にも恵まれ2日とも実施できた。 令和2年・3年ともにコロナ関連で実施できず。			令和元年度から行事報償金への変更した。 今後も継続して支援金額の検証が必要。	新型コロナウィルス感染症対策のため事業未実施により未評価	空港・観光課 自治振興費
街路灯強化事業	27	電気使用料 27	夜間の事故や犯罪を未然に防ぐため、街路灯の設置及び維持管理を行う。	街路灯不足・照度不足が多く指摘されていた。 (放火事件発生を受けた自主防災会・消防団による夜間パトロールで指摘)	20年度に町会・自治会から要望のあったものを中心に、街路灯新設・照度アップを実施、校区内の夜間が明るくなった。 維持費も発生。	校区内の夜間が明るくなったことにより、放火等への牽制効果が出ていると思われる。			町会・自治会組織の無い地域の街路灯強化が必要。 継続して街路灯設置要望を受け付けるようPRも必要。 農地隣接の場所等に設置する場合は、高さ・向き等の調整が必要。	街路灯の設置により、地域内の夜間交通の安全確保が図られた。	土木管理課 交通対策費
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金 200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の高揚に努める。	神田小学校区住民運動会が、地域の寄付・市からの定額支援で実施されており、予算不足を盆踊り収益等でカバーしていた。	市からの定額支援より多くの金額の支援ができた。 令和3年度も新型コロナ関連で住民運動会は実施できなかった。	地域行事の活性化が図れた。 令和2年・3年と2年続いて実施できず。			毎年、助成必要金額の検証が必要。	新型コロナウィルス感染症対策のため事業未実施により未評価	生涯学習推進課 社会体育振興費
安全パトロール実施事業	70	補助金 70	地域の安全・安心の向上のため、パトロール隊が電動自転車パトロールを行う。	P T Aによる登校時の見守り活動は通学路を中心に実施されていたが、下校時を含め校区全体の安全パトロール体制がなかった。 H20年度からパトロールを開始することになった。	電動自転車による安全パトロール体制ができ、ボランティアを中心に下校時の校区内安全パトロールが実施された。(平成21年1月以降) 平成30年度につづき、継続実施できた。 また、令和元年度に老朽化に伴いバッテリー交換不可のため新規に3台購入した。	安全パトロールによる直接の目につく効果はないが、地域住民に少しづつパトロール実施が認識されてきて、防犯意識の向上に役立っている。 また、PRのためパトロール中の肩掛け標も効果をあげている。			ボランティア人員の確保・増員が必要。	日々の地道な活動が地域の安全確保に繋がっている点を評価するとともに、本事業がより一層の防犯抑止に繋がることを期待	危機管理課 自治振興費
地域内会館備品運営事業	330	補助金 330	神田会館に整備した備品の運用を行う。	パソコン・コピー機等がなく不便。(個人の機器の使用・コンビニでのコピー)	ノートパソコン・複写機をリース、書類・パソコン等の保管用の保管庫も購入。	個人の機器の使用もせずすみ、協議会用書類も安くコピーできるようになった。			専用の事務室の設置、併せてファックス用の電話設置が必要。 コピー機も他団体が利用できるように検証が必要。	運用基準を設けた上で、適切な管理運営をお願いするもの。	コミュニティ推進課 自治振興費
神田フェスタ開催事業	150	補助金 150	盆踊り、市民レクリエーションに次ぐ地域住民の交流・ふれあいの場として、フェスタを開催し、恒例行事として定着させる。	地域住民の交流・ふれあいの場としては、年1回の盆踊り・運動会のみであった。	令和元年度も年3回の神田フェスタを開催予定していたが、今年にはいつのコロナ感染の問題で3月予定のフェスタは中止となった。 令和3年度は新型コロナ関連でフェスタは実施できなかった。	回を追うごとに参加者も多くなり、次回への期待の声が多くなってきた。			参加者の増加・高齢者が多いということで開催場所の設定がむづかしくなってきた。 (神田地区中心部にある民間設備の利用も検討) 令和2年・3年と2年続いて開催できず。	新型コロナウィルス感染症対策のため事業未実施により未評価	空港・観光課 自治振興費
神田地域花いっぱい運動支援事業	55	補助金 55	地域内の公園に花壇を設置し、地域ボランティアにて維持管理を行いながら、緑化の推進を図る。また神田小3年生とP T A、地域が一緒になって花を育て、学校や街に植えつける。	地域内の公園には花が少なく、手入れも不十分であった。	公園3ヶ所に花壇を設置、定期的に花の入れ替え・水やり等ができるようになった。 (神田花の会メンバーが対応) また、令和元年度から神田小学校3年生とP T A、地域が一緒になって花を育て、学校に植えたり、地域の施設・団体に贈呈することも始めた。	常にきれいな花がみれるようになって利用者から好評を博している。			他の公園他花壇など必要な場所がないか検討が必要。	常時綺麗な花が楽しめることで、地域住民や多くの公園利用者に喜ばれている。	公園みどり課 自治振興費
キッズランド支援事業	150	補助金 150	子どもパソコン学習教室を小学校・キッズランドと連携して開設し、パソコン操作等の指導を行う。	キッズランドのパソコン教室用備品が不足し、十分な活動ができなかった。	パソコン教室として必要なトナー、用紙類を支援することにした。 令和3年度も新型コロナ関連でキッズランドは実施できなかった。	パソコン教室事業の充実及び参加者の増加が図れた。 令和2年・3年度と2年続いて実施できず。			毎年、備品購入必要金額の検証が必要。	新型コロナウィルス感染症対策のため事業未実施により未評価	教育センター 自治振興費
計	1,990		事業提案限度額 4,605千円	次年度繰越金額 2,615千円							

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和3年度執行）

ほそごう地域コミュニティ推進協議会（細河地区）

事業名	予算額（千円）		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目（目）
	説明										
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								コミュニティ推進課 自治振興費
細河祭り運営事業	150	負担金 150	地域の活性化とコミュニティ意識の高揚を図るため地域住民が細河祭り運営事業を総合的に行う。	地域内のコミュニケーションをより充実させるために、まつり運営を支える必要がある。	地域住民の実行委員会が主体で運営を行って、コミュニケーションを充実させることができた。 ただし、コロナのため祭り自体は中止とってしまった。	地域及び地域外との活性とコミュニティ意識の高揚。	小学校の廃校に伴い地域での行事継続の取り組み方。	各部会からの報告を受け、役員会でまとめたものを総会で決定する。	コロナ禍の状況下、地域実施事業が多いにも関わらず多くの事業を地域のNPOと実施され、地域の活性化に寄与したものと評価。補助金の執行にあたっては、他地域と取扱いに相違が生じないよう留意いただきたい。	新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	空港・観光課 観光費
細河の自然を守る事業①	41	管理委託料 41	ビオトープでのホタルの育成事業を実施し、細河の環境資源を活用した地域の活性化を図る。	ビオトープの整備継続中である。	整備は継続中であるがメダカ等生息の観察ができる。	豊かな自然環境の保全を行い、地域の環境整備に効果あり。	引き続き維持管理を行うため、多額の予算が必要となる。			継続した整備により自然環境の保全に繋がっているものと認識。	環境政策課 環境対策費
街路灯強化事業	8	電気使用料 8	細河地区の防犯灯が設置されていない地域に設置した蛍光灯の維持管理を行う。	街路灯の維持管理を継続し、防犯に努める必要がある。	防犯灯がない地域にLED街路灯を継続して利用できた。	夜道の防犯対策に寄与している。 LED電球は経済的であり、細河の植木植栽類にやさしい。	地域住民に対する調整。			街路灯を適切に維持管理することで、夜道の防犯対策に寄与することができた。	土木管理課 交通対策費
細河コミュニティ道路維持管理事業	69	清掃委託料 69	細河の自然環境や地場産業等を活用し、地域の活性化とコミュニティ意識の高揚を図るため、コミュニティ道路の維持管理を行う。	設置した街路灯の電気代の支払いが必要である。また、雑草や枯葉等で滑ったりして危険である	電気代を支払った。また、急な箇所も滑ることがなくなり、安全に通行出来るようになった。	散策する人が安全に通行出来る様になった。	維持管理が年々負担に成りつつあるので、事業が負担なく出来るよう検討が必要			コミュニティ道路の清掃や除草等により、適切な維持管理を実施できた。	土木管理課 道路維持費
地域コミュニティ紙等発行事業	390	補助金 390	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	地域住民がどんな事業を実施しているのかわからないため、活動を知っていただき、関心を高める必要があった。	年2回（7月、1月）発行。部会毎の事業報告や親水公園・イベント案内・防犯情報など、分かりやすく発信し、地域に関心を持って頂けた。	地域コミュニティ活動の認識や防災の意識を高めている。 また、イベントの集客に寄与した。	より充実した内容にするため、マンネリ化を防ぎ新会員の募集をしていく。地域の方が何を考えているのか投稿コーナーを充実させていきたい。			写真が多く、地域密着の内容が充実しているのを見ていてくれるので楽しい。歴史紹介なども、住民向けだからその内容で評価できる。引き続き地域住民が必要としている情報を掲載してほしい。	広報シティプロモーション課 自治振興費
細河ホームページ管理事業	150	補助金 150	細河の魅力や細河地区の取り組み状況をHPを通じ発信、HPの更新を行う。	池田市内、近隣市、国内、国外では細河の知名度はほとんどなく知名度を上げる目的・手段としてHPを開設し公開した。	毎月2回（年間）広報部員にてHP更新作業を行い出来る限り、地域の新鮮な情報の発信を行っている。	内外から事業・行事などHPを見て細河を訪れる人が増えてきている。	よりタイムリーに情報の発信を行いたい。			引き続き、より見やすくタイムリーにサイトを更新できるように、努めてほしい。	広報シティプロモーション課 自治振興費
細河高齢者等配食サービス事業	2,200	補助金 2,200	配食を必要とする高齢者等に弁当宅配のサービスを引き続き実施する。同時に、訪問、声かけを行い、高齢者の見守りを行う。	継続事業であり、高齢者の声かけや子育て支援を行う。	安価で美味しく好評であった。	細河地区は高齢化率35%で毎年上がる中で、見守り、声かけの実践で安心しておいしい弁当を食べてもらっている。子育てが大変な妊婦さんにも提供し、子育て支援をする。	配達業務の人材を探している。希望者が年々増える中、協議会予算の配食に占める率が増額し、他の事業に支障をきたす。			地域住民が主体となって高齢者を見守っていただいており、大変重要な事業だと認識している。	高齢・福祉総務課 自治振興費
細河地域活性推進事業	1,127	補助金 1,127	細河の自然環境や地場産業等を活用し、地域の活性化と、コミュニティ意識の高揚を図るため、「みどりの郷」観光案内所の運営を行う。	継続事業であり、事務所であるみどりの郷の運営が必要である。	みどりの郷（火曜日は休館）は朝9時から午後4時30分まで開館している。多くの方が訪れ、地域の活性に貢献しました。	みどりの郷への訪問者が多く細河の知名度を高め、地域活性化に貢献。細河の自然を市民に提供し、地域活性に寄与した。	事務所詰め等のボランティアの募集。			案内所の運営により、細河の魅力を発信し、地域の活性化が図れた。	農政課 自治振興費
細河の自然を守る事業②	499	補助金 499	里山での竹や剪定枝の炭焼き活動及び剪定枝リサイクルの調査研究を行う。	里山保全活動を継続しているが、効率よく作業をできないか検討した。	里山保全活動では軽トラックをリースし、間伐した木材を運搬し、しいたけの原木と炭、薪に利用している。	豊かな自然環境と竹林や雑木林の間伐による里山の保全を行い、地域の環境整備に効果あり。	保全エリアが広いので会員以外のボランティア募集方法の検討。多額の予算が必要となる。			里山の環境改善が進み、リサイクル事業も進んでいるが、広い里山のエリアを考えると継続して予算や人的資源等に検討が必要。	公園みどり課 自治振興費
ほそごう地域花いっぱい運動支援事業	30	補助金 30	地域と学校が一緒に実施する「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動の支援を伏尾台地区とともに行う。	継続事業で、伏尾台コミュニティと共に子どもたちが育てた花を細河地区に配る。	継続事業で、伏尾台コミュニティと共に子どもたちが育てた花を細河地区に配る。	地域の特別養護老人ホーム等公的施設の美化。	配った花の管理方法の確立。			継続することで両地域の協力が更に進み、交流・連携強化と地域美化が進むことに期待したい。	公園みどり課 自治振興費
細河地域子ども育成事業	200	補助金 200	校区全体で子どもの育成を行い、協議会と子どもが協働して、子どもとのふれあいの場を維持していく。	平成24年度より継続して子ども達の活動支援をしており、子どもが元気に育成する場を提供している。	8月にプール場、11月芋ほりを実施する。子どもの育成に寄与することができた。	子ども達の活動の充実を図り地域と子どもや親同士との触れ合いを深める。	細河小学校の廃校に伴い地域子どもとのかかわり。			今後も支援は必要と考える	教育センター 自治振興費
計	4,964		事業提案限度額 4,964千円	次年度繰越金額 0千円							

ほそごう地域コミュニティ推進協議会（伏尾台地区）

事業名	予算額（千円）		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課 科目（目）
		説明									
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100									コミュニティ推進課 自治振興費
安全パトロール実施事業	452	修繕料 72 保険料 22 自動車重量税 7 補助金 351	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。  地域安全パトロールを実施し、地区内の安全・安心の向上を図る。	実施前は小学校の登校時に、主に民生委員等による見守りがあった。平成20年9月より実施し、当初小学校の登校日を中心に、H20年は、1回1時間、1日6回のパトロールからスタートし、H21年は、1日4回に組み直して実施した。 H24年は、小学校の曜日毎、学年毎の下校時刻に応じてスケジュールの見直しを行った。H25年度は、1回1時間、1日2～3回のパトロールを実施した。 H26年度は、登校予定日、小学校の曜日毎、学年毎の下校時刻の違いに応じて、より細かくパトロールスケジュールの見直しを行い、月曜日から金曜日の間、7時30分から1時間、15時50分から1時間、19時から1時間の1日3回のパトロールを実施した。 H27年度以降は、小中一貫校のほそごう学園に統合されたことにより、細河地区の中学生、小学生はスクールバスで登下校することになり、主に伏尾台地区の小・中学生の登下校を見守ることになった。 朝の登校時に定点立ちを主に行う挨拶運動、下校時に合わせた午後のアナウンスを行う走行によるパトロール、夜間アナウンスが可能な時間帯の走行によるパトロールを継続して行った。 H27年10月以降、コミュニティプラザを開設してからは、青パト車の駐車場をプラザの南側に設定できたので、隊員のアクセスが良好になった。 H30年、大遊協から提供された青パト車（デイズ）が配備された。同時に、除隊の申し入れが多くなり、隊員補充が全く進まず、2台のパトロール車体制の構想が実現できていない。 R1年、隊員の高齢化が進み、80歳を機に除隊の申し出が多くなった。 R2年、コロナ禍感染防止のため、5月は2人乗務のパトロールを中止した。その後は、朝は定点立ちによるパトロールとし、昼、夜の乗務時の外気導入を積極的にを行いパトロールを実施した。 なお、事業開始時から使用している青パト車の整備に、予定外の故障が発生しており、整備費が高んだ。さらにR3年2月、3月と連続してパンクに見舞われたので、安全確保のため、タイヤ4本を交換した。	巡回スケジュールは、日中は、ほそごう学園の開校日並びに登校・下校時間に合わせて行い、巡回を行った。特に朝は定点立ちパトロールと挨拶を実施し、また、夜間の巡回を併せて行うように計画した。安全パトロールは、通年、一回当たり1時間これを実施した。 巡回時には、バス通りのみならず、伏尾台の周辺地域ならびに公園を重点的にチェックするように心がけた。	パトロールを継続して行った結果、空き巣等の防止に繋がりが、防犯カメラ事業との相乗効果も有り、毎年空き巣犯罪"0"を更新できていたが、H27、28年度は侵入盗事件が各1件発生した。また、29年、30年、31年度共に不審者情報が多数回寄せられているため、巡回時には、バス通りのみならず、伏尾台の周辺地域ならびに公園を重点的にチェックするよう隊員に要請した。 R2年より、朝のパトロールは走行よりも1丁目、4丁目交差点、中央公園などで定点立ちパトロールとし、ほそごう学園生を始めとする学生、通勤者らにあいさつの声掛けを積極的に行うことができた。 下校時並びに夜間の巡回時には、車載スピーカーを用いた放送により、登校下校時の子供の見守り、戸締まり方法、不審なセールス、アンケート調査への注意、夜間の不法駐車禁止を呼びかけることができた。 R2、R3年の1学期はコロナ禍であり、ほそごう学園1、2年生は交通安全の実習を行っていないだったので、パトロール隊員がパトロール車を学園内に持ち込み、指導を行なった。また、1、2年生の徒歩による農業体験地への移動時に、横断歩道の通行を指導した。	隊員の減少と現隊員からの出勤の曜日や時間帯の変更の申し出、さらに夕刻以降の乗務希望者が限定されるため、運行スケジュール立案が事務担当者の大きな負担である。 運行スケジュールの立案とともに、車両の整備、燃料補給などの事務方の処理量が増大している。 隊員の高齢化が進み、毎年、80歳を機に除隊の申し出が多くなったので、助手席乗務をお願いしている。R3年は減少分補充ができたが、助手席乗務の高齢者補充となっている。現在まで、パトロールにおいて、幸い事故は全くなく、このまま安全にパトロールができることを願っている。	各部会からの報告を受け、役員会でまとめたものを総会で決定する。	送迎サービス事業を含め、伏尾台コミュニティプラザを中心・拠点として、各種事業が連携しながら地域の活性化に寄与しているものと評価。一方で経常経費の増大、協議会の体制強化が課題であると認識。	日々の地道な活動が地域の安全確保に繋がっている点の評価するとともに、今後も継続的な活動の実施に期待	危機管理課 一般管理費／自治振興費 総務課 財産管理費

<p>地域コミュニティ推進協議会拠点運営事業</p>	<p>1,980 建物借上料 500 補助金 1,480</p>	<p>地域住民への協議会活動及び地域分権のPRを目的として協議会活動拠点の運営を行う。</p>	<p>コミュニティ推進協議会の活動拠点としての西公園事務所は、伏尾台周回道路沿いで西公園南側と目立つ場所に看板と掲示板を設置して広報活動を行っている。 また、西公園事務所は、地域の「防災・防犯委員会」の活動拠点として、会議の他、年末の防犯防火の巡回拠点として活用してもらっている。さらに、地域内に季節毎の花を植える活動を行う地区福祉委員会の「花の会」の活動拠点として利用してもらっている。 平成27年10月3日に伏尾台コミュニティプラザを開設してその中に協議会事務所機能を移して、フリーサロン、子育て支援ルーム、まちの情報センターの運営を行なった。このプラザ事務所には光ケーブルを引きコピー・ファックス複合機を備えて事務所機能を充実させた。 西公園事務所とプラザ内事務所との両方で活動を実施した。西公園事務所は、元来老朽化して床の損傷が進行したため、東側の半分の床の張り替えを行なった。 平成30年度の伏尾台創生会議2020の事務や打ち合わせ、会議なども本事務所、コミプラで行われた。 伏尾台地域に入ってすぐの目立つ立地条件のもと、webでのグーグル地図にも「伏尾台コミュニティ推進協議会」と表示され、そのストリートビューには黄色い看板が目立っていたが、強風の台風で落下寸前となったため、直ちに撤去した。 平成31年度(R1)は、地域活性化事業の伏尾台 山びこコンサート、落語の開催と事務処理等もコミプラ、本事務所で行なった。夏祭り実行委員会の事務や打ち合わせ、会議なども本事務所、コミプラで行われた。 コミプラ内の子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、平成28年度は7,903名、平成29年度は7,870名、平成30年度は7,597名、平成31年度(R1)は7,386名であった。 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、支援ルームを閉めたり、利用制限を行なったため、支援ルームの利用は1,155名と半減し、フリーサロンなどへは3,774名が来訪され、プラザ全体で4,929名と40%程度の減少であった。</p>	<p>西公園事務所とプラザ内事務所との両方で協議会活動を実施した。 月曜日から金曜日のコミプラの開館日に、3交代でスタッフが留守番を行い、子育て支援ルームや行政証明端末、送迎申し込みなどの対応を行い、閉館後にホールとトイレの清掃を行い、コミプラの維持管理を行った。 R3年は、R2年に続いて新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、支援ルームを閉めたり、利用制限を行なったため、支援ルームの利用はコロナ禍前の3割程度と激減し、プラザ全体で40%程度の減少であった。</p>	<p>西公園事務所は、コミュニティ推進協議会はもとより、防災・防犯委員会並びに地区福祉の花の会の活動拠点として、それぞれ活用されている。 伏尾台コミュニティプラザは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、子育て支援ルームを閉めたり、利用制限を行なう中、自動体温計とアルコール消毒液を設置し、来場者に使用を促し、常時換気を行うなど安全第一で運営を行なった。 プラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、4月1日より翌年3月31日までの実績で4,500名である。子育て支援ルームのみの利用者は、使用制限を行なったため、623名と激減し、フリーサロンなどへははらくらく送迎の利用者が多くなり、3,877名が来訪された。</p>	<p>コミプラのフリーサロンの利用者数は例年同様にあることから積極的な利用を図りたい思いがあったが、コロナ感染症の拡大は今後も続くと考えられ、市役所へ出掛けなくて済むキオスク端末の利用は増加傾向を示しており、また、トイレのみの利用も多くなっており、常時換気と閉館後の消毒を行いたい。掃除スタッフの不足と共にコロナ対策が衛生上の懸念として続いている。 子育て支援ルームの利用は年々減少しており、人口減少で未就園児の絶対数が少ない。社協のファミリーサポート事業の会場として利用できるようにしているが、利用者の増加には結びついていない。幼稚園児との共同利用を考えるが、未就園児への安全性の確保が問題となり、コロナ対策上も、現在のところ未就園児限定の利用しかない。 一方、R3年度内に子育て支援ルーム利用者において第2子や第3子の出産が相次いでおり、送迎サービスと併せてコミプラを中心にした拠点運営の効果ができていると感じられる。 プラザ事務所としては、コミュニティプラザがボランティア支援を含む「まちの情報センター」としての機能は発揮できているが、今後、地域諸団体との連携、さらにはまちの不動産情報、特に空き家対策事業などさらに広範囲の情報センターとして機能させたい。 コミプラの留守番役スタッフ、現在13名（掃除スタッフ兼務2名）でローテーションを組んでいるが、減少の上、依然として絶対数が不足し、募集を行うも応募が全くないことが、運営上切迫した問題のままと続いている。 複数年度の事業検討として、伏尾台の特色ある公園作りを目指しており、西公園の再整備案とともに、西公園事務所には、遊歩道側に独立したトイレが設置されているので、これを整備して遊歩道側に解放することで、散歩中の人や隣接する西公園を訪れる地域の方に利用してもらえようしたい。</p>	<p>コロナ禍の中でもコミュニティの拠点として機能し、地域のつながりに寄与しているものと評価。人員体制の強化は引き続きの課題と認識。</p>	<p>コミュニティ推進課 自治振興費</p>
----------------------------	------------------------------------------	-------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------	----------------------------

<p>コミュニティサロン設置事業</p>	<p>600 建物借上料 500 補助金 100</p>	<p>地域の人々が立ち寄り、世代を超えた交流の活動場所としてコミュニティサロンを伏尾台コミュニティプラザに設置する。</p>	<p>伏尾台には2つのコミュニティセンターがあるが、利用には事前予約が必要であり、散歩の途中に立ち寄り休憩する処、待ち合わせや談笑する処、急に自治会の役員同士が打ち合わせする際など、気軽に利用できる施設がなかった。 平成27年10月伏尾台マンションの1階店舗部分を改修し、「伏尾台コミュニティプラザ」を設け、その中に有償、無償のボランティア活動の供給者、需要者に対して、情報の発信収集並びに斡旋、調整を図るためのボランティアセンターを含むまちの情報センターを設置運営した。プラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者には名簿に記載をお願いした結果、10月3日より平成28年3月31日までの実績で3200名を超えた。 平成28年度は7,903名、平成29年度は7,870名、平成30年度は7,597名で、子育て支援ルームのみの利用者は、2,309名であり、フリーサロンなどへは 5,288名が来訪された。 里山の植物を紹介しているグループの展覧会場として利用された。 総務省の推進事業で、池田市の伏尾台送迎サービス社会実験の会場として10月から12月に利用され、協議会会員がボランティアとして参加した。 地域交通の未来を考える公開講座の会場として利用された。 宿題カフェ会場として利用されている。 夏祭り実行委員会の会議、事務利用されている。 ほそごう学園の地域学習の会場として利用されている。 高齢者の居場所つくり意見会の会場として利用した。 山びこフェスタの落語の会、音楽会の会場として使用した。 令和2年1月より始まった「伏尾台送迎サービス」、地域内限定の無料の送迎サービスにおいて、送迎の始点、終点のポイントとして機能している。 R2年度は、コロナ禍での伏尾台コミュニティプラザへの来訪者は、約4割減の4,929名である。子育て支援ルームのみの利用者は、半減して約1,155名であり、山びこフェスタのイベントを中止したが、フリーサロンなどへは3,774名が来訪された。</p>	<p>利用の形態は、日課の散歩の途中で休憩を取る方、待ち合わせやバスの時間待ちを行う方、フリースクールに通う生徒との待ち合わせを行う保護者、趣味の裁縫などをグループで行う方、自治会やサークル活動の打ち合わせ、小学校、中学校の宿題をグループで行う生徒、談笑するグループ、読書、昼食をする親子、孫と絵本を見る高齢者、買い物帰りに商品を仕分けする方、食事をする学生などまさにフリーサロンとして利用されている。 令和2年1月より始まった「伏尾台送迎サービス」、地域内限定の無料の送迎サービスにおいて、送迎の始点、終点のポイントとして機能している。 コロナ感染症の拡大と共に、山びこフェスタのイベントを中止し、従前のコミュニティサロンの利用者が大きく減少した。特に会議の類は利用者数を制限した会議をお願いした。 その反面、らくらく送迎の利用者が増大してサロン自体の利用者減を補う形になっている。また、キオスク端末の利用が、コロナ禍で外出が控えられているため増加傾向にある。</p>	<p>伏尾台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、4月1日より翌年3月31日までの実績で4,500名である。子育て支援ルームのみの利用者は、使用制限を行なったため、623名と激減し、フリーサロンなどへはらくらく送迎の利用者が多くなり、3,877名が来訪された。</p>	<p>利用者を増やすために、積極的に地域の住民が主催するイベント、講演、各種教室などの企画とともに、一時保育所の運営、高齢者と子どもたちが一緒に夕食を食べる「コミブラキッチン」の運営を行うなどの活動が必要であると考えていたが、今後ともコロナ感染症の拡大に対応することが継続されると予測されるため、単純な利用者の増大を図るのではなく、地域の年齢構成を考慮した子供から大人の多世代交流を促進してコミュニティを形成できる、イベント開催を想定する必要がある。 また、コミュニティプラザがボランティア支援を含む「まちの情報センター」としての機能は発揮できているが、今後、地域諸団体との連携、さらにはまちの不動産情報、特に空き家対策事業などさらに広範囲の情報センターとして機能させたい。</p>	<p>感染症対策を強化しながら、送迎サービス事業とも連携してサロンとして有効に活用されているものと評価。</p>	<p>コミュニティ推進課 自治振興費</p>
----------------------	--------------------------------------	----------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------	----------------------------

<p>まちの情報センター運営事業</p>	<p>600 建物借上料 500 補助金 100</p>	<p>地域のあらゆる情報を提供しボランティア活動者に対して情報発信や幹旋を調整、またコンビニ交付サービス端末を設置したまちの情報センターを伏尾台コミュニティプラザに設置する。</p>	<p>伏尾台にはコミュニティセンターやバス停の掲示板があり、自治会からのお知らせなどが掲示されているが、ボランティアの需要や供給に関する情報収集や提供がなかった。 平成27年10月伏尾台マンションの1階店舗部分を改修し、「伏尾台コミュニティプラザ」を設け、その中に有償、無償のボランティア活動の供給者、需要者に対して、情報の発信収集並びに幹旋、調整を図るためのボランティアセンターを含むまちの情報センターを設置運営した。プラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者には、名簿に記載をお願いしており、10月3日より平成28年3月31日までの実績で3200名を超えた。 平成28年度は7,903名、平成29年度は7,870名、平成30年度は7,597名、平成31年度は7,386名で、子育て支援ルームのみの利用者は、2,176名であり、フリーサロンなどへは5,210名が来訪された。 R2年度は、コロナ禍での伏尾台コミュニティプラザへの来訪者は、約4割減の4,929名である。子育て支援ルームのみの利用者は、半減して約1,155名であり、山びこフェスタのイベントを中止したが、フリーサロンなどへは3,774名が来訪された。</p>	<p>フリーサロン内の壁を掲示板として活用し、まちの情報を、「地域学校行政」「地域環境」「安心安全」「協議会」「コミプラ」「子育て支援」「各種支援」「ボランティア活動」のカテゴリーに分けて種々掲示している。各種の活動紹介の依頼や、ポスターの掲示を願い出られるなど多くのグループに利用されている。 ほそごう学園、フリースクール、地区福祉、社協、池田署、防犯委員会、人権文化交流センター、池田市公益活動促進協議会の広報紙などを展示している。 市のキオスク端末が設置されて、行政証明書の発行手続き、写真印刷やコピーに住民が利用している。 コロナ感染症拡大の影響で、利用者が減少する中、キオスク端末の利用者は増加している。</p>	<p>伏尾台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、4月1日より翌年3月31日までの実績で4,500名である。子育て支援ルームのみの利用者は、使用制限を行なったため、623名と激減し、フリーサロンなどへははくらくく送迎の利用者が多くなり、3,877名が来訪された。</p>	<p>フリーサロンは、日々は子育て支援ルームに訪れる母子、ほそごう学園の生徒が中心に利用しており、山びこフェスタのイベントの際や自治会、伏尾台創生会議、伏尾台夏祭り実行委員会などの会議の際には、伏尾台住民が多く利用されるので、「まちの情報センター」としての機能は発揮できているが、今後、地域諸団体との連携、さらにはまちの不動産情報、特に空き家対策事業などさらに広範囲の情報センターとして機能させたい。</p>	<p>地域の情報拠点として認識され、コミュニティのつながりに寄与しているものと評価。更なる機能強化に期待するもの。</p>	<p>コミュニティ推進課 自治振興費</p>
<p>子育て支援環境整備事業</p>	<p>780 建物借上料 500 補助金 280</p>	<p>幼児をもつ母親の子育て環境改善とコミュニケーションの場づくりを行うため、スペースの確保と用品等の拡充を図る。</p>	<p>平成22年度より、伏尾台第1コミュニティセンター内の一室を使用し、幼児向けの備品を整備し、乳幼児を育てる母親に気軽に集まれる場所として提供し、これを運営する子育て支援グループを立ち上げた。その後も毎週、部屋が開設される日時を決めて、無料登録制で参加者を募集する方法で運営している。 平成26年度は、会員は67組(134人)、ボランティア会員(12名)で構成され、伏尾台第1コミュニティセンターの小会議室を週2回借りて、子育てサロン「フレンズ」を開設した。年間、121組(延べ242人)の利用があった。上記活動の他、七夕とクリスマス時期の年2回、入園前会員宅を訪問して、手作りカードの贈呈、子育ての悩み等の聞き取りを行う活動を、延べ82回(延べ246名)行った。子育てサロン「フレンズ」を卒業した会員による「親子で遊ぶ会」を8月と12月実施し、23組(延46人)の参加があった。 平成27年度は、4月から9月は32組、伏尾台第1コミュニティセンターの小会議室を週2回借りて子育てサロン「フレンズ」を開設した。母子99名、スタッフ72名、延べ171名の利用があった。10月3日より、伏尾台コミュニティプラザが開設されて、子育て支援ルームにて活動を行う。10月3日から3月末までの半年間では、子育て支援ルームにて、母子1202名、スタッフ241名、延べ1443名の利用があった。 平成28年度は、登録会員数は76組、利用者数は母子2,276名・スタッフ393名の延べ2,669名であった。平成29年度は、登録会員数は80組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,377名であった。 平成29年度は、登録会員数は80組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,377名であった。 平成30年度は、登録会員数は90組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,309名であり、平成31年度は、登録会員数は85組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,176名であり、ママの会・卒会員幼稚園児夏休みの集い・AED講習会・ほそごう学園スクールカウンセラーとの交流会2回を開催した。 社協のファミリーサポート事業との連携を進めた。 R2年度は、令和2年3月～5月にルームの使用を停止し、その後は人数制限を行ったため、延べ1,155名の利用であった。</p>	<p>子育て支援ルーム登録会員数は、幼稚園児となる家庭が多く、70組に減少した。令和2年度に続いて、制限下の都度支援ルームの使用を停止し、その後は大幅な人数制限を行ったため、参加要望は多いが、お断りする都度、複数組が共に参加を諦めるため、激減して延べ623名であるが、母子交流の場として定着し、孤独な子育てから親子を守るという目的を達成することができている。 社協の子育てサロンは、コロナ感染症拡大の影響で開催を中断中である。 利用者は年々減少傾向にあり、伏尾台の人口構成からやむを得ないこともあるが、利用者を増やすために、社協のファミリーサポート事業との連携して、支援ルームでサポートが行われるが、利用数の増大には至っていない。</p>	<p>協議会主催のフレンズを中心に、ホップ君、自主サークルひよこと連携しての場となっている効果は大であり、細河地区や、池田市内、里帰り母子の利用も増え、ほそごう地域の親子の絆が深まる効果が出ている。 ママの会・卒会員幼稚園児夏休みの集いは中止した。ほそごう学園スクールカウンセラーとの交流会を開催し好評を得た。月に二度、伏尾台文庫に依頼しての読み聞かせ会が、本に親しむ機会となって好評であったが、コロナ感染症拡大の防止で中止した。七夕・クリスマスに手作りカードを持参しての恒例の家庭訪問実施は悩み相談の機会となっている。 一方、R3年度内に子育て支援ルーム利用者において第2子や第3子の出産が相次いでおり、送迎サービスと併せて子育て支援ルームの運営の効果が出ていると感じられる。</p>	<p>幼児や未就園児を対象に子育て支援を行っているが、園児や小学校低学年の子供たちの支援を要望される保護者や家族が例年多く、幼稚園児の受け入れを開始したが、乳幼児とは行動・適齢玩具が異なり、乳幼児向け支援室での受け入れは課題が多いため、H30年度半ばから受け入れを中止した。 園児と母親との子育て支援を別途考えるが、支援者が少なく、また現在の新たな未就園児の親子への広報活動並びに新規登録等の事務処理、さらに就園児となった親子らとの交流、相談で訪れる母親への支援者が全く足りない。 年度内の制限がかかる都度、新型コロナウイルス感染症の拡散防止のためルームの使用を中止した。今後の開催方法は、部屋の換気能力を上げることができないため、空気清浄機の利用とともに人数制限を維持するしかなく、他の感染防止策とともに考えなければならない。しかし、人数制限等に関し、概して若い母親たちは、母親同士の交流を図りたいが先で、感染防止について関心が薄いように見受けられる。</p>	<p>親子が居心地よく過ごせる場所として地域に定着していると評価。引き続き感染症対策を徹底しながら、コロナ禍でできる取組を実施してほしい。地域の人的資源の発掘に期待している。</p>	<p>コミュニティ推進課 子育て支援課 自治振興費</p>

AED管理事業	43	消耗品費 43	地域内の各会館に設置したAEDについて、定められた消耗品の交換をし、正常に使用できるよう維持管理を行う。	<p>阪急バス車庫事務所、伏尾台センターコープ店舗内に設置した。これまで使用されたことがないが、緊急時に備えてメンテナンスが必要である。平成29年度は伏尾台センターコープ店舗内に設置したAEDにおいて、設置から7年を経過したAED装置本体を交換して、引き続き使用可能な状態を維持した。</p> <p>伏尾台センター ミニコープ内に設置したAEDにおいて、パッドを交換して、引き続き使用可能な状態を維持した。また、定期的に設置状態の確認を行うことが必要であり、これを実施している。</p> <p>阪急バス事務所の場合はこの場所まで取りに行くことより救急車を呼ぶ方が効率的であると想定できるため、同事務所のAED本体の交換時期が到来した場合、その設置を継続しないことを確認し、R2年度で撤去された。</p> <p>伏尾台センターマンションの管理室には管理組合が購入したAEDが配置され、ミニコープには、本部からの備品としてAEDが配置されることになり、本事業のAEDを旧伏尾台小学校体育館に配備した。</p>	<p>旧伏尾台小学校体育館内に設置したAEDにおいて、パッドを交換して、引き続き使用可能な状態を維持した。また、定期的に設置状態の確認を行うことが必要であり、これを実施している。</p> <p>旧伏尾台小学校には、ポプラ学園等がAEDを複数台所有しているため、体育館に配備したAED本体の交換時期が到来した場合、その設置を継続しないことを確認した。</p>	<p>毎日、ほそごう学園のスクールバス運転手が詰めている間、フリースクールが開校している間、体育館を利用している住民がいる間、体育館玄関内に、AEDが使用可能な状態で常備されることになった。</p>	<p>毎年9月に防災防犯委員会の委員で使用訓練を実施し、毎年11月に総合防災訓練で参加者に使用体験を実施しているが、さらに住民向けの使用訓練の機会を設けることが必要である。</p>		<p>スポーツ施設である体育館にAEDを配置することで、多くの住民の安心感を得ることが出来る。今後も引き続きAED設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていきたい。</p>	<p>健康増進課 保健衛生総務費</p>
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金 200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の高揚に努める。						<p>新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価</p>	<p>生涯学習推進課 社会体育振興費</p>
伏尾台創生会議2020宣言広報事業	25	補助金 25	伏尾台創生会議2020で採択された伏尾台「子育てにやさしいまち」宣言を広報するため、新吉田橋のライトアップとサイン設備を維持管理する。	<p>市の公募により平成28年1月に組織された伏尾台創生会議2020は、平成28年3月26日に伏尾台地区再生のための提言を市に提出するとともに、伏尾台「子育てにやさしいまち」宣言を行なった。</p> <p>この宣言を聞いた伏尾台住民が、伏尾台の入り口である「新吉田橋」のライトアップと上記の宣言を広報するサイン設備を寄付して下さることになり、平成28年11月末に設備が完成した。</p> <p>市への寄付設備の贈呈が行われたが、H28年11月からの電気代などの維持管理はコミュニティ推進協議会が行うことになった。</p>	<p>「新吉田橋」のライトアップ装置は、コンピュータ制御によるLEDライト設備で、予め設定された日没から夜明けの夜間のみ点灯されるため、比較的安全な電気代で維持できた。</p> <p>また、住民の手で、伏尾台「子育てにやさしいまち」宣言が書かれた横断幕を点検することができた。ただし、退色は進行し、汚れが目立つようになっている。</p>	<p>新吉田橋の欄干に設けられた横断幕は、国道423号線の北行き車線から容易に視認できるため、伏尾台地区がここにあること、子育てにやさしいまち宣言した地区であることを国道往來者に広報できている。</p> <p>R2年、1丁目に居住し、11月に出産した30代夫婦は、横断幕を見て地域を見学し、保育所などが近いことから居住を決めたという。</p> <p>また、夕方から夜間に帰宅する伏尾台住民は、ライトアップされた新吉田橋を見ることができ、我が家に帰ってきたことを実感できると、好評である。</p>	<p>協議会としては、電気代の支払いのみの管理しかできない。住民にとっては、横断幕の点検はできるが、その清掃や修繕などは不可能である。特に、横断幕を取り付けている部分の橋の欄干がかなり汚れている。また、ライトアップ装置の点検維持も住民には行うことができないが、設備寄贈者が点検しており、故障等は発生していない。</p>		<p>新吉田橋のライトアップにより、伏尾台地区のにぎわい創出に寄与している。</p>	<p>土木管理課 自治振興費</p>
伏尾台地域送迎サービス事業	750	補助金 750	主に自宅とバス停間の送迎を行い、交通弱者の地域内への積極的な外出及び帰宅を支援し、地域内交流の増進を図る。	<p>伏尾台の住民、特に自家用車などを持たない、高齢や病弱などで運転ができない、伏尾台センターへ買い物や通院で通う場合に徒歩以外に交通手段を持たないなどの地域内交通弱者に対する救済手段が全くなかった。</p> <p>そこで、「伏尾台送迎サービス運営委員会」を組織したボランティアグループが、軽自動車車両のリース代、燃料費、各種保険に要する費用の一部を市のアクティブシニア補助金制度で負担し、令和2年1月から3月に、伏尾台地域内限定で無料無償で送迎する「伏尾台らくらく送迎」が行われた。</p> <p>令和2年度は、送迎車両の運転を無償ボランティアで行う「伏尾台送迎サービス運営委員会」を協議会内に取り組むことで、軽自動車車両のリース代、燃料費、各種保険に要する費用の全額を協議会が事業費として負担することで、「伏尾台らくらく送迎」を令和2年4月以降も継続実施した。</p> <p>一方で、本事業の今後の継続を考えて、国交省の日本版MaaS実証実験の実施地に組み入れられるよう、市の担当部局に令和2年6月末までに立候補をお願いした結果、選択されて令和2年12月～令和3年2月に実験が実施された。</p> <p>MaaS実証実験中にキャンペーンの効果もあり、登録者数は190名を超えた。送迎申込回数は、本年度内で520回を超え、送迎人数は800人を超えた。</p>	<p>R2年、コロナ禍の最中のスタートとなったが、地域住民に送迎サービスの再開を告知して、事前個人登録制とし、伏尾台コミュニティプラザに申し込みの電話をかけることで、送迎サービスを受けることができるようになった。</p> <p>送迎車両は、リース契約を行う軽自動車を利用する。送迎ドライバーは、予め事務局に勤務可能な日時を登録しておき、利用者の申し込み日時とのマッチングを図り、送迎を行った。</p> <p>R3年度は、引き続きコロナ禍で、送迎申込みにおおいにムラが見られ、送迎申し込み回数は、415回、送迎人数は521人であった。</p>	<p>R2年1月開始以来、R4年3月月末時点で、登録者数は210名を超え、送迎申込回数は1100回を超え、送迎人数は1400名を超えた。</p> <p>送迎サービスのリピーターたちには、伏尾台での生活に欠かせないサービスであるとの評価をいただいた。</p> <p>また、子育て支援ルームに通う母子等の中に、妊婦が増えて送迎サービスの利用申し込みが多くなってきた。子育てにやさしいまち宣言の実行がなされている。</p>	<p>無償ボランティアドライバーは、事業のスタート時から2名が健康上の理由からリタイアしたが、幸い2名の補充が叶い現在に至り、現在10名である。</p> <p>平均年齢76歳のドライバーが、平均年齢82歳の登録者を送迎しており、本事業が地域に不可欠な事業となった今、登録者数は増加傾向にあり、当然平均年齢が上昇する中、送迎ドライバーの確保をどうするかが問題である。</p> <p>しかし、事業免許を持たない住民高齢者が住民を送迎するには、無償無料の送迎を行う以外手がないこと自体が、ドライバーを確保できない原因であり、今後の事業継続が危ぶまれる。</p> <p>伏尾台地域内限定で無料無償で送迎する「伏尾台らくらく送迎」を、地域の高齢化率が年々上昇する中で、辛うじて実施できている間に、市が事業主体として予算化し、地域の交通事業者、団体に事業委託する形態の事業、有料有償の「伏尾台らくらく送迎」事業化を検討していただきたい。</p>		<p>高齢層だけでなく子育て世代へも利用層が広がり、地域内の移動手段として活用されている。</p>	<p>交通道路課 自治振興費</p>
計	5,530		事業提案限度額	8,750千円	次年度繰越金額	3,220千円				
合計	64,511		事業提案限度額	89,869千円	次年度繰越金額	25,358千円				